

令和3年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)

# 研究開発報告書

第3年次



かみやま

徳島県立城西高等学校神山校

本報告書は、文部科学省の委託事業として、徳島県教育委員会が実施した令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

# はじめに

校長 阿部 隆

本校は、令和元年度より文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の研究指定を受け、地域をフィールドとして学びや地域発展に貢献する中で、神山校の活性化に取り組んでまいりました。その中で特に「中山間地の地域内循環モデルの構築」をテーマとし、令和元年度より研究開発に取り組んでおります。この度、本事業の最終年度としての3年目を迎え、これまでの取組とその成果並びに課題について、研究開発に関する実践報告書をまとめることができました。

本報告書の作成にあたり、関係の皆様方からの御支援並びに御協力により完成させることができましたことに、心より感謝申し上げます。

本校は、県都徳島市に隣接する名西郡神山町に存する全校生徒87名の小規模校です。令和元年度に学科再編し、地域創生類を設置しており、その中で地域と連携した教育活動を推進し、地域に根ざした持続可能な循環型の農業教育を通じて学校の活性化を図り、地域産業や地域社会に貢献できる人材の育成に取り組んできております。

神山町は、鮎喰川の上流域に位置し、周囲を山に囲まれた中山間地で林業を中心に栄えてきた経緯があるものの、長年の林業不振により衰退の一途をたどっています。また、現在の人口は約5000人と人口減少に併せ高齢化が著しく進行、そのことで、耕作放棄地を増加させるなど農林業離れに拍車をかける現状あり、これらのことが、町存続の大きな課題となっています。

2015年に策定した神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」により、課題解決に向け具体的な施策とそれらを推進していく組織「一般社団法人神山つなぐ公社（以下、神山つなぐ公社という。）」が設立された。神山つなぐ公社は神山町活性化のためのプロジェクトを実現していくために、町内外の様々な人、企業、関係団体、学校等に働きかけ、施策の実現に向けて協働した取組を強力に推進するとともに神山町も令和6年度には「神山まるごと高専」の開校を目指すなど、教育振興による地域活性化を推進しています。その中で、神山校は、神山町の未来につながる地域教育の拠点として位置付けられ農業高校ならではの専門性を活かした地域連携や地域の魅力づくり、地域への担い手育成に向けた取組に大きな期待が寄せられています。一方、学校も神山町との連携により、多くの実践的活動を取り入れ、学校のさらなる活性化を目指し日々積極的に連携を進めているところであります。

地域の思いや願い、期待と神山校が思い描く教育の方向性を結び付けるために学校設定科目「神山創造学」を設定し、地域貢献の足がかりとすべく取り組んでいます。また、平成29年度からは、神山校の教職員と神山つなぐ公社等の職員が中心となり、町全体を学びの場として捉えた体験的学習を探究してきました。さらには、その他の科目でも、神山町の施策に連動したプロジェクトに生徒自身が関わることで、町役場や地域住民、企業、大学等と連携した教育、学校と地域との協働による学びを年々深めつつあります。

しかし、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校においては感染対策を講じる中で、かなり制限された取組となってしまう、本事業の様々な場面において活動の見直しを検討し、特に重要な学習活動への動機付けや地域との協働学習での関わり方の検討など実践のためのいくつもの課題解決に苦慮した2年間でした。

その中でも本事業での趣旨や目的をしっかりと踏まえ、「神山創造学」並びにその他の教育活動を深化させる中でコロナ対策を万全にした上で新たな取組を実践しつつ、その成果と課題を検証してまいりました。

特に3年間の本事業を通して、神山校と地域の連携・協働の在り方やカリキュラム開発を推進していく必要があることが確認できました。

これらの成果と課題については、これまでの3年間を踏まえ、学校と地域で共有し、今後の地域との協働に生かせるようさらに検討・推進してまいります。これまでの本事業実施に御協力くださったコンソーシアムを構成する神山町をはじめ、神山つなぐ公社、株式会社フードハブプロジェクト、大学、県教育委員会、地元教育機関等、多くの関係者の方々、そして御指導並びに御助言をいただきましたすべての皆様に深甚なる感謝を申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。



# 目 次

<b>I 研究開発実施報告（要約）</b> .....	1
<b>II 研究開発の内容</b> .....	9
1 「神山創造学」の再構築 .....	11
(1) 全体指導計画 .....	11
(2) 神山創造学の取組 .....	15
(3) キャリア教育の取組 .....	35
(4) 基礎学力の強化 .....	39
2 地域性を生かした質の高い教育環境の整備 .....	41
(1) 造園教育における「専門人材の配置」 .....	41
(2) 多様な地域連携を実現する教育課程の構築 .....	42
① 筆文字研修 .....	42
② 海洋自然研修 .....	43
③ SDGs 研修 .....	45
④ 林業体験 .....	46
3 地域の生産・交流拠点の創出 .....	49
(1) シードバンクとしての機能 .....	49
① 神山小麦の栽培・加工 .....	49
② 神山蕎麦の栽培 .....	52
(2) 道の駅販売活動 .....	54
4 地域を学びの場とした実践 .....	56
(1) 神山町をフィールドとした「森林ビジョン」 .....	56
(2) 耕作放棄地を活用した「まめのくぼプロジェクト」 .....	62
<b>III コンソーシアム会議</b> .....	75
1 本年度コンソーシアム会議について .....	77
(1) 第1回全体会報告 .....	77
(2) 第2回分科会報告 .....	89
① まめのくぼプロジェクト環境部門 .....	89
② まめのくぼプロジェクト食農部門 .....	89
③ 地域留学生のキャリア意識 .....	90
(3) 第3回コンソーシアム会議・運営指導委員会 .....	92
<b>IV 成果・課題</b> .....	103
<b>V 資 料</b> .....	107
1 目標設定シート .....	109
2 教育課程 .....	111



# I 研究開発実施報告（要約）

## 1 研究開発名

地域で学び地域と育つ神山校～中山間地の地域内循環モデルの構築～

## 2 研究開発概要

次の項目を、神山校を中心としたコンソーシアムと連携して取り組む。

- (1) 「神山創造学」の再構築 (2) 地域性を生かした質の高い教育環境の整備  
(3) 地域の生産・交流拠点の創出 (4) 地域を学びの場とした実践

## 3 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない  
・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

## 4 運営指導委員会の体制

氏 名	所 属 ・ 職	備 考
前田 洋一	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 高度学校教育実践専攻 教授	学識経験者 カリキュラム開発，学校組織 マネジメント
鎌田 磨人	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授	学識経験者 生態系管理工学
向井 理恵	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授	学識経験者 食品化学，栄養化学
松山 隆博	徳島文理大学保健福祉学部 准教授	学識経験者
高田 研	都留文科大学教養学部 特任教授	学識経験者
隅田 徹	株式会社プラット・イーズ 会長	学識経験者
中山 竜二	認定特定非営利活動法人 グリーンバレー 理事長	学識経験者
高橋 博義	神山町教育委員会 教育長	関係行政機関の職員
久保 素弘	城西高等学校神山校 学校評議員	学校教育に専門的知識を有する者
佐山 哲雄	徳島県教育委員会学校教育課 キャリア・消費者教育担当 室長	関係行政機関の職員

## 5 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機 関 の 代 表 者 名
徳島県教育委員会	教育長 榊 浩一
徳島県立城西高等学校神山校	校長 阿部 隆
神山町	町長 後藤 正和
一般社団法人神山つなぐ公社	代表理事 馬場 達郎
株式会社フードハブ・プロジェクト	共同代表取締役支配人 真鍋 太一
徳島大学	学長 野地 澄晴
鳴門教育大学	学長 山下 一夫
大正大学	学長 高橋 秀裕
株式会社えんがわ	代表取締役社長 隅田 徹
Sansan 株式会社	代表取締役社長 寺田 親弘
認定特定非営利活動法人グリーンバレー	理事長 中山 竜二
神山町林業活性化協議会	会長 後藤 正和
特定非営利活動法人里山みらい	理事長 佐々木宗徳
神山町下分保育所	所長 楠 貴代
神山町広野保育所	所長 西橋 宏子
神山町神領小学校	校長 楠 達也
神山町広野小学校	校長 河上 正信
神山町神山中学校	校長 高橋 敬治

## 6 カリキュラム開発専門家，地域協働学習支援員

分 類	氏 名	所 属 ・ 職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	尾崎 士郎	鳴門教育大学 特命教授	報償費
カリキュラム開発専門家	安永 潔	四国大学経営情報学部 准教授	報償費
カリキュラム開発専門家	佐野 恵里	徳島県教育委員会 学校教育課高校教育・GIGA 担当 指導主事	なし
カリキュラム開発専門家	中川 望	徳島県教育委員会 学校教育課回帰創出・消費者教育担当 指導主事	なし
地域協働学習実施支援員	森山 円香	一般社団法人神山つなぐ公社 理事・ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	秋山 千草	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	梅田 學	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当	社会人講師
地域協働学習実施支援員	樋口明日香	株式会社フードハブ・プロジェクト 食育係	社会人講師



## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業 務 項 目	実施期間(令和3年4月1日～令和4年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」におけるフィールドワーク			○	○								
学校設定科目「神山創造学Ⅰ」における活動報告				○			○					
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」によるプロジェクト活動			○	○		○	○	○	○			
学校設定科目「神山創造学Ⅱ」による活動報告				○				○			○	
「課題研究」における活動（環境デザインコース・食農プロデュースコース）			○	○	○	○	○	○	○	○		
キャリア教育充実における仕事体験					○		○		○			
キャリア教育充実におけるインターンシップ					○							
キャリア教育充実における講話			○	○					○			
他教科等と関連させた指導			○	○			○	○				
基礎学力の強化のための「学びの基礎診断」		○								○		
地域性を生かした「専門人材の配置」								○	○			
地域性を生かした「スタディツアー」							○					
地域の生産・交流拠点としての「シードバンク」			○	○			○					
地域の生産・交流拠点としての「校庭マルシェ」								○				
地域を学びの場としての「森林ビジョン」			○		○		○					
地域を学びの場としての「耕作放棄地対策」				○	○	○	○	○	○			
地域を学びの場としての「石積み修復」				○	○	○	○	○	○			
神山創造学での副読本制作			○	○		○	○					
コンソーシアム会議			△				△					△
運営指導委員会												△
カリキュラム開発等専門家									△			
コンソーシアムプロジェクトチーム会議	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

##### ○「神山創造学」の再構築

「神山創造学Ⅰ」では、生徒が町内のフィールドワークを通じて、歴史・文化・暮らし・産業などの調査を行った。「神山創造学Ⅱ」では、地域の行政機関や地元企業と協働して、課題解決に向けたプロジェクト学習に取り組んだ。増設2単位分で、耕作放棄地の有効利用について実施し、石積み修復や景観修復、地域性種苗の栽培と加工、商品開発に取り組んだ。そして3年次での「課題研究」に発展できるよう、活動内容報告会を年間2回実施した。

##### ○地域性を生かした質の高い教育環境の整備

造園教育での高度資格取得に挑戦するため、県造園協会から講師を招聘しキャリア教育における資格取得の向上や、耕作放棄地対策についての取組を雑誌編集経験者やフリーライターから

指導助言を受け学校設定科目副読本を作成した。スタディーツアーでは、山と海のつながりを知るため海陽町で生徒研修を実施した。また、カリキュラム開発等専門家の指導助言を受け、校内ほ場の有効活用について、コースごとのビジョンを共有し考えることができた。

○地域の生産・交流拠点の創出

地域性種苗のコムギとソバを栽培し、校内で種を保管できるようになった。また、「道の駅 神山」で農産物や花苗の販売、課題研究成果発表と「神山創造学Ⅱ」のチームプロジェクトを実施する場としてイベントを実施した。学校防災クラブの炊き出し訓練の実施と城西高校農業科も参加して合同開催となったので、来場者も多く、活動発表の機会に恵まれた。

○地域を学びの場とした実践

学校の演習林や、町内の耕作放棄地や石積み修復を学びの場として、教科書や実習で学んだことを生かした様々な取組を実施した。森林ビジョンでは、町と連携し1年生が林業研修を実施した。耕作放棄地の取組は、「神山創造学Ⅱ」増設2単位分の活動に位置づけて取り組み、コース学習の要となって意欲的に活動する生徒の姿が見られた。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

○「神山創造学Ⅰ」（2単位）第1学年対象 ※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員3名、1学年担任1名、地域協働学習実施支援員1名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度、実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・「神山創造学」を学ぶにあたって ・地域の現状を学ぶ  
・地域の課題解決に向けた取組み ・職業体験プロジェクト  
・聞き書きプロジェクト ・調査のまとめと発表

○「神山創造学Ⅱ A」（4単位）第2学年環境デザインコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員4名、2学年担任1名、地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度、実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・チームプロジェクト（課題調査、課題解決の実践など）  
国際交流、神農祭、神山PR、地域貢献、環境保全の5チーム毎に実施  
・まめのくぼプロジェクト景観創造活動  
・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「神山創造学Ⅱ B」（4単位）第2学年食農プロデュースコース対象

※教科「農業」の学校設定科目

指導体制：農業科教員4名、2学年担任1名、地域協働学習実施支援員3名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度、実施状況）」「プリント等の記録」

（各学期末）定期考査

学習内容：・まめのくぼプロジェクト（景観修復・6次産業化学習活動）  
・プロジェクトのまとめと発表 ・活動報告作成

○「課題研究」（4単位）第3学年対象

教科「農業」の科目、総合的な学習（探究）の時間の代替科目

指導体制：農業科教員3名、3学年担任1名、地域協働学習実施支援員1名

評価の観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

評価方法：（毎時間）「観察法（学習態度，実施状況）」「プリント等の記録」

主な内容：・課題の設定 ・調査・研究・実験・作品製作等 ・中間発表

・課題研究「実践集」原稿作成 ・課題研究発表会

- ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

○「フードデザイン」（2単位）第2学年対象 「神山創造学ⅡB」と関連した指導

・小麦の素材要素について学習し、栽培と生活文化の関連性について考えた。

・地域性種苗の重要性和商品開発の可能性について地域の食品製造企業の方から、焼き菓子製造を通して6次産業化に関する学習を行った。

- ④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制  
カリキュラム編成チーム（教頭，教務主任，農場長，地域協働学習実施支援員）において，次年度の教育課程，教員の配置，教科横断的な学習，各教科評価方法等について協議し教科間の接続内容や効果について協議し実施した。また，コンソーシアム会議で本校教員全員が分科会ごとに協議に加わり，コンソーシアムメンバーへ本校教育活動を報告し共有していくことで，生徒の実態に合わせた地域との協働が推進できるようになった。

- ⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

研究開発事務局は，企画運営担当，大学連携担当，企業連携担当，広報推進担当，経理担当の5チームからなり，組織的な取組となるように，企画・立案や推進体制について教員全体で共有した上で検討を行い，実施に当たっては管理職が各チームの調整や監督を行った。

- ⑥ 学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

毎月のプロジェクトチーム会議において，本事業の実施状況や今後の進め方，研究成果の振り返りと評価を管理機関からの指導助言をいただきながら実施し，学校長の判断・指示を仰いだうえで研究開発を進めた。

当該年度の取組について，生徒・教職員による自己評価，運営指導委員会からの指導助言，学校評価委員会からの評価，コンソーシアムメンバーからの指導助言等も踏まえて，事業遂行に関する課題を設定し，計画の修正を行うなどの改善を行った。

- ⑦ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

カリキュラム開発等専門家会議において，「神山創造学ⅡA，B」について学習の深化を図る計画と地域における耕作放棄地の新たな環境整備，現有実習地の効果的利用について協議を行った。コンソーシアム会議では，カリキュラム開発等専門家からの意見を踏まえて分科会を設定し，キャリア教育や農業教育等の本校教育活動において地域とどのような連携・協働が可能になるかを協議した。

- ⑧ 運営指導委員会等，取組に対する指導助言に関する専門家からの支援について

運営指導委員会において，学習評価の方法や脱炭素化を取り入れたSDGsに関する学習方法の提案，町内の保小中との農業を通じた連携等について指導助言をいただいた。特に「体験の経験化」について，体験させる前に課題を考えさせ課題体験型学習とすることで経験として積み重ねていき，その経験がまた次の体験につながるように課題を設定して考えさせていくことの重要性を全職員で共有し，日頃の学習活動で意識をしながら取り組むようになった。

- ⑨ 類型毎の趣旨に応じた取組について

「神山創造学」及び「課題研究」では，生徒が町内でのフィールドワークを通して，地域の人との関係性を育み，地域で受け継がれてきた文化，仕事，産業について調査や研究を深め，そして地域の課題に気づき，それらを基にして本人が探究したいテーマを設定し解決していくことを



学んでいる。3年間で地域の人と関わっていくことや、地域内の環境、食農、経済における地域内循環システムを自らが体験することで、地域の一員として具体的に果たすべき役割を自覚し、課題研究で学んだことを将来の進路に生かせることができた。今後は神山創造学での学びについて、地域と協働することを視点において研究課題を改善することで、生徒の研究実践の取組を地域内で共有することができ、定期的に地域からの点検・評価を受けながら、機動性のあるコンソーシアム組織として継続させていく。

⑩ 成果の普及方法・実績について

○課題研究発表会の開催についてのチラシの作成・地域への配布を行うとともに、課題研究報告集の編集を行った。

※配布先（本校教職員20名、本校生徒85名、R4新入生30名、発表会参観者40名）

○学校ホームページに研究開発の取組内容を掲載し、閲覧者数を伸ばすことができた。

○社団法人神山つなぐ公社主催の「神山つなぐプロジェクト報告会」において研究開発の取組内容や、これまでの町との連携事業の成果を発表し、参加者に理解を得ることができた。

○今年度の研究開発を行った内容を冊子として編集し、関係機関等に配布する。

※配布先（本校教員20名、本校生徒56名、新入生30名、コンソーシアム18名、運営指導委員8名、カリキュラム開発等専門家2名、地域協働学習実施支援員4名、地域魅力化型指定校19校、県内の公立高校等45校、県教育委員会25冊）

## Ⅱ 研究開発の内容

# 1 「神山創造学」の再構築

## (1) 全体指導計画

### 授業実施一覧／神山創造学 I

日 程	時間数	大 項 目	内 容	配 布 物
4/14(水)	6	新入生合宿	・アイズブレイク ・体験学習 ・ふりかえり	
4/15(木)	6		・アイズブレイク ・カレー作り ・焚き火を囲んでのふりかえり	ふりかえりシート
4/21(水)	2	オリエンテーション	・新入生合宿の振り返り ・神山創造学とは	
4/28(水)	2	フィールドワーク準備	・人生グラフ ・公社馬場さんからまちの話、つなプロの話	人生グラフ記入シート
5/12(水)	2		7つのコース説明と選択	コース紹介シート 1学期の評価項目シート
5/19(水)	2 + 農当	フィールドワーク	・フィールドワーク ・ふりかえり	ふりかえりシート
6/2(水)	3 + 農当			ふりかえりシート
6/9(水)	3 + 農当			ふりかえりシート
6/16(水)	2	発表準備	発表の準備	発表準備シート
6/23(水)	2		・発表の準備 ・1対1で発表リハーサル	リハーサルフィードバックシート
6/30(水)	2	発表	発表 (1人4分)	
7/7(水)	1	期末考査	・1学期のふりかえり ・作文	テスト用紙
7/9(金)	1	1学期のふりかえり	・授業フィードバック ・しごと体験希望調査	付箋
9/8(水)	2	オリエンテーション	・授業フィードバックに返答 ・「まちぐるみしごと体験」とは	2学期スケジュール 2学期授業概要
9/15(水)	2	2年生の体験談	・2年生によるインターンシップ体験談 ・「なぜ僕らは働くのか」視聴	感想シート
9/22(水)	2	しごと体験先の決定	・事業所候補から希望先選択 ・自己紹介シート記入	自己紹介シート
9/29(水)	短2	卒業生の話	・田中くんのしごと体験、インターン、進路選択	感想シート
10/6(水)	2	しごと体験準備	・電話の掛け方 ・日報の書き方 ・体験後の発表内容について	仕事体験の詳細情報 日報、電話の掛け方
10/13(水)	6	しごと体験		
10/14(木)	6			
10/27(水)	2	しごと体験ふりかえり	・3人1組でふりかえり ・お礼状下書き	お礼状のサンプル、便箋
11/10(水)	2	発表準備	・発表に向けて資料、原稿作成 ・発表評価について説明	発表原稿下書きシート 評価基準シート
11/17(水)	2		資料、原稿作成	発表原稿下書きシート
11/24(水)	2	発表	・3つのグループで発表 1人5分 ・聞き手は付箋にコメント記入	
12/10(金)	1	期末考査	・2学期のふりかえり ・作文 ・授業フィードバック ・聞き書き希望	テスト用紙、フィードバックシート
12/21(火)	2	2学期ふりかえり	授業フィードバック、しごと体験希望へ返答	
1/12(水)	短2	オリエンテーション	聞き書きテーマ選び	
1/19(水)	2	聞き書き準備	・2年生2人から体験談 ・質問準備	体験談の感想・メモ記入シート 「聞き書き研修」テキスト抜粋資料
1/26(水)	2	聞き書き	60~90分間 (オンライン)	
1/27(木)	2	文字起こし		
2/9(水)	2	興味関心について深める	・聞いた話の整理 ・興味関心探し	文字起こし原稿
2/16(水)	2			
2/22(火)	3	発表準備		
3/3(木)	2	発表		
3/4(金)	1	期末考査	・3学期のふりかえり ・作文 ・授業フィードバック	
3/16(水)	1	3学期ふりかえり	・授業フィードバックへ返答	
3/17(木)	3	四国大学特別授業	・ボードゲームを通して、他者理解を深める	



授業実施一覧／神山創造学Ⅱ チームプロジェクト

日 程	時間数	大 項 目	内 容	配 布 物
4/19(月)	2	1学期オリエンテーション	・チームプロジェクトについて ・テーマのアイデア出し（ワールドカフェ形式）	ノート
4/26(月)	2	テーマ・チーム決め	・チームプロジェクトの進め方 ・小グループでテーマについて再考 ・チーム決め ・新チームで話し合い	
5/10(月)	2	チーム活動開始	・チームで今後に向けた話し合い ・チームビルディングのためのアイスブレイク	
5/17(月)	2	チーム活動		
5/31(月)	2			
6/7(月)	2			
6/14(月)	2			
6/21(月)	2		中間報告の説明，資料準備	・中間報告での発表について ・司会，発表順決め ・発表準備
6/28(月)	2	資料準備	発表準備	
7/5(月)	2	リハーサル，資料準備	・2グループに分かれてリハーサル・フィードバック	
7/12(月)	2	・中間報告	・全校生徒へ中間報告 ・発表後，チームごとのブースでフィードバック ・チームで振り返り ・個人で振り返り	
9/6(月)	2	2学期オリエンテーション	・話し合い練習（合意形成ゲーム） ・2学期の目標・計画・役割分担確認	・ゲーム説明 ・2学期のスケジュール
9/13(月)	2	チーム活動		
9/27(月)	2			
10/4(月)	2			
10/11(月)	2			
10/18(月)	2			
10/26(火)	2			
11/2(火)	2			
11/9(火)	2			
11/16(火)	2			
11/30(火)	2		振り返りについて	チームの振り返り／個人の振り返りについて
12/7(火)	2	チームごとの振り返り		
1/18(火)	2	発表準備		
1/25(火)	2	3学期オリエンテーション	・発表会に向けて ・発表の見本サンプル提示（フードロスプレゼン）	・発表内容資料 ・プレゼン評価資料
2/1(火)	2	発表準備		
2/8(火)	2	リハーサル①	・発表順，司会決め ・発表準備	
2/15(火)	2	発表準備		
2/18(金)	2	リハーサル②	まめのくほの時間を使用し，追加で準備	
2/21(月)	3	最終報告	・リハーサル（会場準備・投影確認） ・1会場で1年生・先生向けに発表（発表7分 質疑5分）	発表会コメントシート
2/22(火)	2	振り返り	・チーム混合グループで振り返り ・3学期の成績評価	発表会コメントシート

授業実施一覧／神山創造学Ⅱ コースプロジェクト  
環境デザイン

日 程	時間数	大 項 目	内 容	配 布 物
4/22(木)	2	合同オリエンテーション	年間の活動イメージをもつ	
5/6(木)	2	石積み	床掘り	
5/13(木)	2			
5/20(木)	2		ビデオ鑑賞	
6/3(木)	2		床掘り	
6/10(木)	2		床掘り	
6/17(木)	2	フィールドワーク	郁子さん、浩代さんの話を聞いてまめのくぼの活動のこれからをイメージする	
6/24(木)	2	石積み	床掘り	
7/2(金)	2	学年合同共有会 期末考査の説明	・写真を見せながら、食農、環境の取り組みを伝え合う ・期末考査についての説明 ※各自で記入して、担当教諭に提出	ふりかえりシート 作文用紙
9/9(木)	2	石積み	実際に石を積む	
9/16(木)	2	フィールドワーク	・KAMIYAMA BEER 見学 ・神山小麦の加工について	
10/7(木)	2	石積み		
10/14(木)	2	サンゴの事前学習		
11/10(水)	2	石のピックアップ	建設現場からの石のピックアップ	
11/17(水)	3	石積みレクチャー	金子さんより石積みのレクチャー	
11/19(金)	2	周辺整備	修復した石積み周辺の掃除	
12/3(金)	2	学年合同共有会 期末考査の説明	・写真を見せながら、食農、環境の取り組みを伝え合う ・期末考査についての説明 ・作文記入のためのデータを送信 ※各自で記入して、担当教諭に提出	ふりかえりシート 作文記入用のデータ
1/14(金)	2	伐木	杉檜の伐木	
2/4(金)	2			
2/18(金)	1	発表会準備		
2/25(金)	2	伐木	杉檜の伐木	
3/3(木)	2	実習 試験オリエンテーション 期末考査の説明	・杉檜の伐木 ・期末考査についての説明 ・作文記入のためのデータを送信 ※各自で記入して、担当教諭に提出	ふりかえりシート 作文記入用のデータ

食農プロデュース

日 程	時間数	大 項 目	内 容	配 布 物
4/22(木)	2	合同オリエンテーション	年間の活動イメージをもつ	
5/6(木)	2	栽培	茶摘み	
5/13(木)	2	栽培	小麦の観察・記録	
5/20(木)	2	栽培計画／クッキー試食	・まめのくぼの圃場の栽培計画を立てる。 ・本校の生徒たちの神山小麦のクッキーを試食する	
6/3(木)	2	小麦選別／オンライン交流	・小麦の選別 ・オンライン交流は有志3名(クッキーの感想を伝える)	
6/10(木)	2	栽培	小麦選別	
6/17(木)	2	フィールドワーク	郁子さん、浩代さんの話を聞き、まめのくぼの活動のこれからをイメージする	
6/24(木)	2	栽培	小麦選別	
7/2(金)	2	共有会(環境・食農合同)	写真を見せながら、食農、環境の取り組みを伝え合う。	
9/9(木)	2	栽培	蕎麦の播種	
9/16(木)	2	フィールドワーク	・KAMIYAMA BEER 見学 ・神山小麦の加工について	
10/7(木)	2	製粉	・かまパンで製粉 ・神山小麦のパンを試食する	
10/14(木)	2	サンゴの事前学習		
11/19(金)	2	管理	・まめのくぼの圃場の整備・掃除	
12/3(金)	2			
1/14(金)	2	栽培	・蕎麦の選別	
2/4(金)	2	実食	・蕎麦の実の殻を取り、茹でて試食(中国産との比較)	
2/18(金)	1	発表会準備		
2/25(金)	2	管理	・茅の根っこ抜き	
3/3(木)	2	試験オリエン・実習		

授業実施一覧／課題研究

日程	時間数	大項目	内 容	配 布 物	
3/19(金)	2	課題研究に向けて	・発表会へのコメント共有 ・まめのくぼ振り返り ・課題研究オリエン ・どんな課題研究にしたい？(グループ) ・キーワード探し(個人)	キーワード探しシート	
4/13(火)	短2	1学期オリエンテーション	・課題研究とは ・性格分析ワーク ・1学期成績評価について	ノート	
4/16(金)	短2	テーマ設定	ハテナづくりワーク	ハテナづくりワークシート	
4/20(火)	2		・センバイの事例① テーマ設定のポイント ・研究計画書の書き方	センバイの例ワークシート 研究計画書	
4/23(金)	2		・活動資金について、ふるさと納税の説明 ・センバイの事例② ハテナを探すワーク ・小グループで相談		
4/27(火)	2	研究計画・活動	・「社会」側から困りごと&活動提案 ・研究計画書づくり		
5/11(火) 14(金)	各2 ×2回		各自活動		
5/18(火)	2		研究計画書提出		
5/21(金)	2		小グループで研究計画発表会	研究計画書コピー(小グループ分)	
5/28(金) ~6/11(金)	各2 ×5回		各自活動		
6/15(火)	2		中間報告会の説明		
6/18(金)	短2		中間発表会グループ分け ・司会決め		
6/22(火) ~29(火)	各2 ×3回		各自活動		
7/1(木)	2		中間発表会	・2会場で全校生徒へ発表(発表7分 質疑3分)	発表評価シート
7/8(木)	2		期末考査	・1学期自己評価 ・2学期活動計画	1学期振り返りシート
7/16(金)	2	1学期振り返り	・中間発表(欠席者3組) ・振り返りシート&発表評価返却 ・1学期授業振り返り(グループワーク)		
9/7(火)	2	2学期オリエンテーション	・2学期のスケジュール ・活動計画相談		
9/10(金) ~24(金)	各2 ×4回	活動	各自活動		
9/28(火)	2		小グループで状況報告・相談		
10/5(火) ~25(月)	各2 ×4回				
10/28(木)	2	甲斐かおりさん特別授業	・ライターの仕事について ・書くワーク		
11/1(月)	2	作文	・作文のポイント、必須項目 ・進め方(提出締め切り12/6)	作文について	
11/4(木)	2				
11/8(月)	短1				
11/11(木)	短2		一次提出		
11/18(木)	2		添削返却、清書		
11/22(月) ~29(月)	各2 ×3回				
12/2(木)	2	発表準備	発表会に向けて	発表会について	
12/6(月)	2	2学期振り返り	・2学期自己評価 ・3学期目標設定 ・発表会への要望	2学期振り返りシート	
12/16(木)	2	発表準備			
12/20(月)	2		・振り返りシート&作文評価返却 ・2組ずつリハーサル		
1/13(木)	短2	3学期オリエンテーション	・3学期成績評価 ・発表会への要望へ応答 ・発表順・司会決め		
1/17(月)	2	発表準備			
1/20(木)	3		・会場設営 ・全体リハーサル		
1/21(金)	3	課題研究発表会	・2会場で全校生徒へ発表(発表8分 質疑5分)	*オンライン配信	
1/24(月)	2	3学期振り返り	・コメントシート返却 ・ポジティブフィードバック ・3学期自己評価 ・先生から総括 ・動画上映	発表会コメントシート 3学期振り返りシート	

## (2) 神山創造学の実践

### ① 神山創造学Ⅰについて

#### a 神山創造学の目的

神山町内の聞き取り調査やフィールドワークを通じて、その歴史・文化・暮らし・産業などについて、調査を行い、里山の景観保全や中山間地域における農業生産をはじめとする町内の現状や課題について理解を深めるとともに、地域の将来を見据えた施策を行う行政や地域住民らと協働して、その課題解決に向けてプロジェクト学習に取り組む。プロジェクト学習を通じて、職業観・倫理観の涵養を図るとともに、地域の課題を主体的に考え、行動できる意欲や態度を育て、将来的に地域の中心となって活躍できる人材の育成を目的とする

(授業を通して育成したい力)

他者と関わりながら自分の頭で物事を捉えていくための基礎的な力

伝える力 : 自分の感情や考えを言語化・視覚化することによって表現し、発信していく力

協働する力 : 多様な価値観や背景を持つ他者と関わり、対話を通して物事を進めていく力

深める力 : 体験からの内省を通して教訓や新たな課題を獲得し、探究・解決しようとする力

#### b 実施内容

○一学期(神山を知るためのフィールドワーク)

#### 目的(ねらい) | 何のためにするのか

- ・フィールドワークを通して様々なまちの人と言葉を交わし、3年間、まちで学ぶことが楽しみになっている。
- ・出会った大人の進路選択の話聞き、自分自身の将来のことを考えてみる。
- ・フィールドワークで感じたことを本番やふりかえりで話し、「伝える」ことに慣れる。

#### 目標(小ゴール) | 目的達成のために

- ・フィールドワークで出会うまちの大人から、進路選択の話聞き、質問する。
- ・フィールドワークごとにレポートに感じたことを書き、仲間に共有する。
- ・フィールドワークで感じたことをまとめて、仲間に発表する。

#### 評価 | 評価の対象

- ・期末考査での振り返り
- ・期末考査での作文

#### 評価軸 | 振り返りの詳細

##### **【伝える】**

- ・感じたことを話し手や仲間に伝える

S	A	B	C
コミュニケーションの基本の全てに気をつけ、感じたことを具体的に話した。加えてより伝わり易くなる工夫を考え、実行した。	コミュニケーションの基本の3つ以上の項目に気をつけ、感じたことを具体的に話した。	コミュニケーションの基本1つ以上の項目に気をつけ、具体的ではないが話した。	コミュニケーションの基本、話したことどちらもできなかった。

コミュニケーションの基本…表情、姿勢、声の大きさ、声の抑揚、視線、うなずき

・「伝える」本番に向けての準備

S	A	B	C
本番に向けて、毎週のレポートをしっかりと記入し、事前の時間を使って集中して準備し、実際に話す練習もした。加えて、授業外の時間でも努力をした。	本番に向けて、毎週のレポートをしっかりと記入し、事前の時間で集中して準備し、実際に話す練習もした。	本番に向けて、毎週のレポートを記入し、事前の時間で準備した。	レポートを記入や事前の時間で準備をあまりできなかった。

【深める】

・自分の興味関心を深めるための質問をする

S	A	B	C
聞いた話を元に質問するだけでなく、事前に関連することを調べた。それを元に質問を準備し投げかけた。	聞いた話を元に質問するだけでなく、質問を準備し投げかけた。	聞いた話を元に質問するだけでなく、質問を準備し投げかけた。	質問をほとんどできなかった。

・自分の興味・関心や将来について考える

S	A	B	C
フィールドワークや授業で気になったことを調べ、自分の将来や興味・関心を考え、何か行動した。	フィールドワークや授業で気になったことを調べ、自分の将来や興味・関心考えた。	フィールドワークや授業で気になったことを調べた。	特に何もできなかった。

【協働する】

・仲間へサポート

S	A	B	C
仲間の作業の進み具合や様子を見て、相手の個性に合わせたサポートを考え、積極的に実施した。	仲間の作業の進み具合や様子を見て、積極的に実施した。	仲間が手助けを必要としていることが明確な時は協力した。	ほとんど仲間の手助けはしなかった。

・自分の得意なことを生かして、グループ活動に関わる

S	A	B	C
自身の得意なことを理解し、状況に応じて活かした。合わせて、仲間の得意なところを見つけ、状況に応じて、協力の依頼ができた。	自身の得意なことを理解し、状況を見て活かした。仲間の得意なところを見つける努力をした。	自身の得意なことを理解し、状況を見て活かした。	自分の得意なことを活かさなかった。

## 授業日程

日 程	内 容
4 / 21	オリエンテーション（創造学とは、身につけて欲しい力、評価 など）
4 / 28	人生グラフを書いてみる 神山の取り組み（つなぐ公社代表理事 馬場さん）
5 / 12	フィールドワークのコース選択 コースについての調べ学習
5 / 19	フィールドワーク①
6 / 2	フィールドワーク②
6 / 9	フィールドワーク③
6 / 16	「伝える」ための準備①
6 / 23	「伝える」ための準備②
6 / 30	仲間に「伝える」本番、期末考査についての説明
7 / 15	振り返り

### 生徒の感想 ※一部を抜粋

（よかった点）

- ・神山の知らない事などを詳しく話を聞いたり、体験できなのが良かったと思った。
- ・普段は話す機会のない人の話を聞くことができ、とても良い経験になった。
- ・みんなの前で自分の意見を言う大切さが分かった。
- ・地域の大人と話せる機会があって考え方が広がった。もっとこのような時間が欲しい。
- ・発表（皆の前で喋ること）が苦手で、創造学で「必ず発表する」機会があるから、自信をつける事が出来たし、皆の発表を聞いて、発表の仕方が学べたことが良かった。

（改善して欲しい点）

- ・人と話し合う時間も、もちろん大事なことだと思うけれど、その前にある一人で考える時間をもう少しとった方がより良い内容の話し合いが出来るんじゃないかと思った。
- ・良いことだと思うけど、個人的には質問者に対して「なんでこのような質問をしたのか」を聞かれると、今度、質問できる人が少なくなるんじゃないかと思った。
- ・事前に準備する時間が少なかったからもう少し時間が欲しい。

○二学期（まちぐるみ仕事体験）

### 目的（ねらい） | 何のためにするのか

- ・神山町内の事業所で働くことで、地域との関係性を育み、まちに知り合いを作る。
- ・しごと体験を通して人生観や仕事観を考え、言葉やその他の表現を使い他者に伝える。

### 目標（小ゴール） | 目的達成のために

- ・希望する（興味を持てる）職種を経験できる機会にする。
- ・よりよい機会にするために、OBOG や先輩の体験談を聞く場を作る。
- ・仕事体験の中でインタビューの時間を設け、「働く」について聞く時間を持つ。
- ・体験を通して考えたことを他者にプレゼンする機会を設ける。

### 評価 | 評価の対象

- ・期末考査（振り返りと作文）
- ・日報
- ・発表



## 評価軸 | 振り返りの詳細

### 【伝える】

- ・表現に困った時のヘルプメッセージの発信

S	A	B	C
何に困っているのかを具体的に言葉にし、自分なりの考えやアイデアを持って、自分から仲間や大人に助けを求めた。	何に困っているのかを具体的に言葉にし、自分から仲間や大人に助けを求めた。	何に困っているのかを言葉にではできないが、自分から仲間や大人に助けを求めた。	自分から、仲間や大人に助けを求められなかった。

- ・しごと体験の発表

S	A	B	C
より伝わる発表のための方法や工夫を調べ、自身でも考え、取り入れた。授業以外の時間でも話す練習をした。	より伝わる発表のための方法や工夫を、自身で考え、取り入れた。授業内でできる限り、話す練習をした。	発表に向けて、必要最低限（原稿作成）準備をした。	発表に向けて、十分に準備ができなかった。

### 【深める】

- ・他者の表現からの学習

S	A	B	C
他者の表現を見て、良い点とその理由を考え、取り入れた。他者と比較して、自分の伸ばすポイントを考えて。	他者の表現を見て、良い点とその理由を考え、取り入れた。	他者の表現を見て、良い点を取り入れた。	他者の表現を見て取り入れることができなかった。

- ・自分の興味・関心や将来について考察

S	A	B	C
しごと体験を通し、自分の将来や興味・関心について考え、言葉にし、そのことを授業以外でも人に共有し、その上で行動した。	しごと体験を通し、自分の将来や興味・関心について考え、丁寧に言葉にした。	しごと体験を通し、自分の将来や興味・関心について考えた。	自分の将来や興味・関心について考えることができなかった。

### 【協働する】

- ・事業者との信頼関係の構築

S	A	B	C
事業者の方に積極的に自分から話しかけ、信頼関係を作り、職場体験後も続く人間関係を作れた。	事業者の方に人から積極的に話しかけ、信頼関係を作れた。	事業者の方からの働きかけには応えた。	あまりコミュニケーションをとることができなかった。

日 程	内 容
9 / 8	一学期の振り返り 二学期の授業説明（仕事体験の概要と目的について）
9 / 15	2年生インターンシップの体験談を聞く
9 / 22	体験先の選択, 卒業生からのメッセージ
9 / 29	事前学習①（自己紹介シートの記入,）
10 / 6	事前学習②（電話の掛け方, 日報の書き方, 諸注意）
10 / 13・14	仕事体験本番
10 / 27	振り返り, レポートの記入, お礼状の作成
11 / 10	発表準備①
11 / 17	発表準備②
11 / 24	3グループに分かれて発表
12 / 1	振り返り

### 生徒の感想 ※一部を抜粋

（よかった点）

- ・一学期にはなかった先輩の話を知ることが良かった。
- ・仕事体験で仕事の大変さや楽しさが学べて良かった。
- ・仕事先を選ぶさいに、生徒たちにどんな仕事がいいのか知ることが良かった。
- ・友達や家族以外と電話や手紙をすることがほとんどなかったので、仕事体験の確認や終了後に教えてもらいながらも、体験ができて良かったです。

（改善して欲しい点）

- ・ちょっと堅苦しいと思う瞬間がある。
- ・フィールドワークをもっと増やしてほしい。
- ・発表の前の準備の時間がもっと欲しい。

### ○三学期（聞き書き）

#### 目的（ねらい） | 何のためにするのか

- ・情報を整理して受け取る

1学期, 2学期では話を聞いて, 感想を伝える, 書くという力を育んだ。3学期では, 聞いた話を聞き直し, 文字起こしすることで, 情報を整理し, 正確に受け取る力を育む。

- ・「神山のこと」から社会を読み解く

2学期ではしごと体験を通じて, 自分への気づき, 今後の自分にどう活かすかについて考えた。3学期の聞き書きでは, 体験から社会とのつながりを考える力（深める力）を育む。

- ・チームプロジェクトの種を見つける

整理したものの中から, チームで話し合い課題を見つける力を育む。この経験を, 2年生のチームプロジェクトにつなげられるといいと考える。

#### 手段 | なぜ「聞き書き」なのか

- ・神山のじいちゃん, ばあちゃんの話は自分たちが体験していないことではあるが, 教科書よりももう少し身近に感じられるので, 興味関心を持ち取り組みやすいと考えているため。
- ・神山のじいちゃん, ばあちゃんが大切に, 積み重ねてきた生きる知恵や技術, そして心をして

いねいに聞くことで、みんなの将来を考えるヒントがあるかもしれないと考えているため。

### 目標（小ゴール） | 目的達成のために

- ・情報処理の時間で文字起こしをする。
- ・グループごとの「聞き書き」を元に、深めるテーマを設定する。
- ・グループごとで取り組んだテーマ、深めた考えを他のチームに発表する。
- ・授業最終日、チームメイトに授業を通しての気づきをメッセージで送る。

### 評価 | 評価の対象

- ・期末考査（振り返り・作文）
- ・インタビュー後のレポート
- ・グループ発表

### 評価軸 | 振り返りの詳細

#### 【伝える】

- ・自分の感じたことや考えを伝える

S	A	B	C
仲間での話し合いを進展させることを意識しながら、自分の意見やアイデアを積極的に伝えた。	仲間に自分の感じていることや考えたことを積極的に伝えた。	自分から積極的に話すことはあまりなかったが、意見を求められた時には自分の考えを伝えた。	ほとんど話し合いに参加しなかった。

#### 【深める】

- ・質問の事前準備

S	A	B	C
話を聞く方のことや周辺情報を事前にしっかり調べ、より深く話が聞けるように、個別の質問を準備した。	十分ではないが、話を聞くことに向けて、事前に周辺情報を調べ、質問を準備した。	下調べはできなかったが、質問は準備した。	質問をほとんど準備できなかった。

- ・事後の調べ学習

S	A	B	C
聞いた話や授業で気になったことをWEBや参考資料を使い調べた。その上で自分なりの考えを整理し、仲間に伝えた。	気になったことをWEBや参考資料を使い調べ、そのまま仲間に伝えた。	気になったことをWEBや参考資料を使い調べた。	特に調べることはしなかった。

## 【協働する】

### ・発表に向けての協力

S	A	B	C
より聞きやすい発表にする話し合いに積極的に協力するだけでなく、困っている仲間のフォローもした。	より聞きやすい発表にする話し合いに積極的に協力した。	積極的に協力できなかったが、求めに応じて協力した。	ほとんど協力できなかった。

### ・仲間への理解

S	A	B	C
授業中の仲間の言動を通じて、仲間の新たな一面（好み、得意不得意、個性）を具体的に発見し、接し方・話しかけ方を工夫した。	授業中の仲間の言動を通じて、仲間の新たな一面を具体的に発見した。	授業中の仲間の言動を通じて、具体的ではないが仲間の新たな一面を発見した。	仲間の新たな一面を発見できなかった。

## 授業日程

日 程	内 容
1 / 12	二学期の振り返り 三学期の授業説明（聞き書きについて、テーマ決定）
1 / 19	2年生より聞き書きの体験談を聞く 「聞き書き」の準備
1 / 26	「聞き書き」本番
1 / 26～2 / 1	文字起こし
2 / 2	聞いた話を元にディスカッション①
2 / 9	聞いた話を元にディスカッション②
2 / 16	聞いた話を元にディスカッション③
2 / 22	聞いた話を元にディスカッション④
3 / 3	テーマごとに深めた内容を共有
3 / 16	振り返り

## 生徒の感想 ※一部を抜粋

- ・聞き書きをして変化したことは、めんどくさがるの私は何回もやり直して少しでも皆がわかりやすいようにしたことです。後、自分からチームのために行動しようと思うようになりました。
- ・聞き書きを通して考えたことは、経験が大切だと思ったことです。話しを聞いていると農業だけでなく、色々な仕事をやったり、3ヶ月ヨーロッパをヒッチハイクで旅したりと経験することによって学ぶことがたくさんあるんだなあと思いました。僕も一つの事だけでなく色々経験してみようと思いました。

### c 取り組みの成果

神山創造学Ⅰでは、プロジェクト学習を進めるために必要な力を全員が習得できるように、同

じ課題に取り組んでいる。神山町全体を教室と見立てて授業を展開し、その中で、町内のことを知るだけでなく、様々な業種の大人と関わることで、生徒たちはたくさんの人生観と職業観に触れ、刺激を受けていると考えられる。また、自分の考えを言語化し、相手に伝える活動を積み重ねることで生徒の感想にもあったように、人前で話す事に自信がついたという生徒も出てきている。自分を表現し、他者の表現を受け入れる寛容さが身につけているように思う。さらに、「伝える」「深める」「協働する」という活動は、社会生活を行う上で大切なこの1つである。意識して、その活動を生徒たちに提供している神山創造学では、生徒それぞれの習熟度に違いはあれど、確実にそれらの力を身につけることが出来ている。それは大きな成果の1つだと考えられる。

教員のスキルアップという点でも神山創造学Ⅰでの生徒との関わりは重要である。生徒が主体的に学ぶ環境を作るためにも教員のスタンスはとても重要な要素である。私自身、生徒たちと答えのない課題に取り組む姿勢をともに学ぶ、とてもいい機会であったと感じている。

## ② 神山創造学Ⅱについて

### I 取り組みの概要

神山創造学で身につけたい力「伝える・協働する・深める」のうち、2年生では特に「協働する」に焦点をあて、コースプロジェクトやチームプロジェクトに取り組んだ。

コースプロジェクトは、環境デザインコースと食農プロデュースコースが「まめのくぼ」谷地区の耕作放棄地でそれぞれコースの目標に沿って活動をしている。

チームプロジェクトは、環境デザインコースと食農プロデュースコース混合チームで、今年には5つのテーマ【伝統野菜・フードロス削減・国際交流・学食と購買・池整備】について、それぞれ4～8名程度の人数で取り組んだ。

### 【単位数及びプロジェクトの内容と担当】

#### 単位数（4単位）

神山創造学Ⅱ A（環境デザインコース21HR=12名）

まめのくぼ担当（丸山・草本・梅田）

石積み

水路の修復

杉林の管理と活用

柵の設置や電柵（獣害対策）

神山創造学Ⅱ B（食農プロデュースコース22HR=14名）

まめのくぼ担当（佐藤・中西・樋口）

年間栽培計画づくり

草刈りや耕耘作業

神山小麦・ソバの栽培・加工品開発・販売

柵の設置や電柵（獣害対策）

神山創造学Ⅱ AB（チームプロジェクト）

・伝統野菜（桑本） ・フードロス削減（秋山） ・交際交流（保積）

・学食と購買（丸山） ・池整備（佐藤）

### 【まめのくぼプロジェクト（環境デザインコース）】

本来のまめのくぼは、傾斜地にある棚田であった。昨年度までの石積みの施工と水路の修復活動が徐々に進み、環境が復元されつつある。石積みは、本学年が1年生の時に石積みの施工を学んだ現場があり、その続きの完成を本年度の目標にした。また、景観の保全としては、草刈りと道路淵の整備を行った。さらに、まめのくぼの西側の杉林の管理と活用について取り組んだ。

### 【まめのくぼプロジェクト（食農プロデュースコース）】

小麦の栽培が3期目、ソバの栽培が2期目を迎え、栽培活動に随分見通しを持って取り組めるようになってきた。栽培計画を生徒自らが立てることによって、年単位の活動をイメージしながら毎時間の作業に取り組んでいる。

収穫した小麦は約150キロであった。一部は町内のパン屋「かまパン」へ納品し、一部は町内のブリュワリー「KAMIYAMA BEER」へ納品した。残った小麦は自分たちで脱穀・選別し、町内にある製粉機で製粉した。製粉した小麦は、活動に制限もあったが、3年生が課題研究でレシピ開発をするための試作に使ったり、家庭総合やフードデザインの調理実習で使用したり、生徒たちが小麦を食べる（味わう）こともできた。昨年に続き、城西高校食品科学科の生徒と小麦でクッキーの試作作りも進めている。今年は、試作のクッキーを食べてオンラインミーティングで感想を伝ったり、商品開発の工夫を聞いたり、生徒同士の交流の時間をもつことができた。食品科学科の生徒たちは神山小麦の食感や風味の特徴をつかみ、その特性を生かした焼き菓子の開発を進めている。さらに、道の駅で神山小麦のクッキーや小麦の販売も実施した。

また、昨年のソバ栽培は、獣害により全滅したが、今年は、電柵を設置したおかげで無事に収穫することができた。地域の方にもご協力いただき、ソバを食べるところまで授業で取り組めるように調整しているところである。

### 【チームプロジェクト】

本年度のチームプロジェクトは、5つのテーマを設定した。2回の授業にわたり話し合いをし、テーマ決めを行い、一人一人が自分が参加するテーマ・チームを選んだ。国際交流は今年4年目となる継続テーマである。池整備は昨年の生徒たちが始めたものでそれを後輩が引き継ぎたいという思いから2年連続の取組となった。それ以外の3つのテーマは今年度新たに生まれたものである。生徒たちが普段から気になっていたことや、1年生の創造学の「聞き書き」で地域の方から聞いた話が元になり出てきたテーマである。それぞれのチームには、担当教員または社会人講師（つなぐ公社）が入り、プロジェクトの指導にあたった。活動の様子は、7月に全校生徒に向けて、2月は1年生に向けて最終報告を行った。

#### 5つのチームプロジェクト

##### ・伝統野菜チームプロジェクト

「伝統野菜の復活」「耕作放棄地の再利用」「神山独特の野菜栽培」の3つに絞り活動することを目標とした。

##### ・フードロス削減チームプロジェクト

町内の飲食店へのフードロス状況調査のためのアンケートを実施し、結果を受けて学校の規格外野菜の販売方法の開拓に取り組んだ。

##### ・国際交流チームプロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防のためオンライン交流となったが、今年度も11月末にオランダのピーテルフルン校の生徒とのオンライン交流を目標として活動してきた。



・学食と購買チームプロジェクト

神山校には学食や購買がないため、昔あった購買場所を活かして購買を復活させようと購買で売る商品開発や販売活動を行った。

・池整備チームプロジェクト

昨年の活動を引き継ぎ、校庭の中庭にある池の環境整備を整えることで、池に生き物が生息できる状態を保ち、美しい庭園にすることを目標に活動した。

## II 取り組んだこと

### 【まめのくぼプロジェクト（環境デザインコース）】

詳しい活動内容や成果並びに今後の展望については本報告4で「地域を学びの場とした実践」で報告する。

### 【まめのくぼプロジェクト（食農プロデュースコース）】

詳しい活動内容や成果並びに今後の展望については本報告3「地域の生産・拠点の創出」並びに4「地域を学びの場とした実践」で報告する。

### 【チームプロジェクト】

・伝統野菜チームプロジェクト

- ① 伝統野菜の種の入手先は、知り合いや役場の産業観光課農業担当の方、公民館の利用者や、道の駅などで販売している農家の方から情報を集めた。その後、神山町民と関わりの深い施設を訪ね「二十日大根」「キュウリ」「パンダ豆」「黒大豆」「ソラマメ」「コマツナ」「トウガラシ」の種を入手した。
- ② 神山で伝統野菜を昔からの方法で栽培している佐々木正實さん（74歳）にインタビューをした。
- ③ 耕作放棄地を開拓し伝統野菜を6月から育てることを計画したが、栽培に適した立地条件のいい土地がなかった。中山間地には広大な土地があるが利用困難で水の確保や排水の設置ができていないなどの課題が浮き彫りとなった。そこで、使われていない私有の畑を利用して栽培していくことにした。栽培手順は、ポットに伝統野菜の種を直接まき、その苗を大きく育てた。管理は当番を決め灌水を行うことにした。肥料は草などを敷き完全無農薬の野菜作りに挑戦することにした。



・フードロス削減チームプロジェクト

- ① 町内のフードロス状況調査のための飲食店向けのアンケートを実施した。その結果、町内の飲食店では、フードロスは多くはなく、賄いにしたり、畑の肥料にしたりとある程度活用されていることがわかった。また、「お店の廃棄よりも生産者の方の野菜が売れずに畑で廃棄されてる方が多いかもね」という話があった。神山校で育てた野菜も形の悪いものや傷の

ついたものは廃棄されていることを思い出し、学校で育てた野菜の廃棄をなくせるよう、野菜販売の活動を開始した。

- ② 2学期からは、学校の廃棄野菜をどのようにしたら減らせるか、どのようにすると学校の野菜を地域の方に届けられるを考え、実際に町へ出て販売活動を行った。さらに地域の方の意見を直接聞いてみようとして鬼籠野の高齢者の方々が集まるサロンを訪問した。その場でトントン拍子に「このサロンで売ったらいい」という話になり、毎週火曜日に野菜を販売する活動が始まった。
- ③ 12月には下分よこの市という地域のイベントにも出店した。
- ④ 12月末には自分たちが今まで考え実践してきたことを農業科の先生方にプレゼンテーションし、学校の廃棄野菜をなくすため、授業内での効率の良い野菜の販売や定期的な販売先での販売、週末イベントでの販売など3つを販売方法を提案をした。



#### ・国際交流チームプロジェクト

- ① オランダについて知識を深めるために、インターネットで調べたことをまとめたり、オランダに住んでいたことがある阿部さやかさんにオンラインでインタビューをしたりした。
- ② 11月末のオンライン交流の内容を検討した。まず最初にでた案としては、神山町の特産であるスダチを紹介したいという思いから「スダチゼリーをオンラインで一緒につくり楽しむ」というものが出た。しかし、調べていくうちに、スダチをオランダに送ることができないということが分かり、スダチゼリーの企画は断念した。次に自分たちが普段実習などで使用している農機具を紹介しようと考え準備してきたが、オランダにも同じようなものがあり、オランダの高校生に楽しんでもらえる内容ではないのではないかという意見が出て変更することにした。最終的には神山町や神山校の紹介をクイズを交えながら紹介していくということになった。
- ③ 本番に向けてのリハーサルでは、メンバー以外の方々にもプレゼンテーションを見ていただいた。その後、アドバイスを活かして修正をした。
- ④ オンライン交流当日（11月26日）は、両校の生徒が英語で自己紹介の後、両校が順番にプレゼンテーションを行い、その後は、英語でのフリートークを楽しんだ。



#### ・学食と購買チームプロジェクト

- ① 他校の購買ではどのような商品が売られているのか、どのような感じなのかが分からない

状況だったので、県内の高校の購買や食堂の情報を収集した。

- ② 学校で育てた野菜が傷んでいたり、虫に食われていたりする場合、家庭に持ち帰ることがあるが、それらの野菜を使い少しでも多く使い商品開発ができないかと考え、学校で育てた野菜でのメニューを検討した。
- ③ 活動資金として、神山町のふるさと納税教育推進事業に応募し、7月に神山町長にプレゼンテーションを行い約3万円の活動資金を確保することができた。食材や調理道具の購入、販売許可の申請に活用した。
- ④ サツマイモでコロッケを作ることになり何回か調理を行い改善してできたのが、サツマイモコロッケである。小麦粉もまめのくぼで収穫した神山小麦を使用した。営業時期を神農祭の当日と設定したが、コロナ禍のため販売できず、急遽11月23日の祝日に温泉の里神山道の駅でコロッケを販売することにした。道の駅で販売したところ40食すべて完売した。
- ⑤ 購買復活は10月のオープンスクールと11月の神農祭前日祭の昼休みに購買で「かまパン」のパンを仕入れ生徒対象に販売した。両日とも事前に欲しいパンを生徒に聞いていて数も決めていたので全部完売することができた。

(販売許可は教員が徳島県南部総合県民局で飲食店営業許可書を申請し食品衛生責任者の資格を取得した。)



#### ・池整備チームプロジェクト

- ① 池の排水溝も約40年前から排水溝がつまり機能していなかったため、電動水中ポンプを使って排水してから池の清掃を行った。
- ② 池周辺の落葉樹の落ち葉が多いため、落ち葉の対策を考え、池にネットを張って落ち葉をキャッチするようにした。
- ③ 生き物を飼育するためには、常に水が循環することが大切であることから、電動水中ポンプを工夫して鮎喰川から水を引き上げる仕組みを考えた。電気によるポンプなので、動力が弱かったため、中間地点を2カ所作り、池まで川の水を引くことに成功した。
- ④ 池の景観を考慮し、水を入れるのは竹筒を作った方が良いという意見から、竹を切り出し、竹筒を組み立てた。





### Ⅲ 取り組みの成果

チームプロジェクトでは、どのチームも当初の目標通りの活動をスムーズに行うことが難しかった。理由の1つには新型コロナウイルスの影響もあるが、それ以外にもチーム内での話し合いの難しさやリーダーがチームをまとめていくことの大変さなどを感じた結果となった。チームとしてのそれぞれの役割を明確にし、話し合いの時間を計画的に設定することの大切さを実感できたことが成果といえる。また、目標に向かってP（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）のPDCAサイクルのC（評価）・A（改善）が機能しておらず、次のP（計画）にうまくつなげていけなかったというチームもあり、改めて振り返りの大切さにも気づくことができた。一方、何度もしっかりと話し合ったことで異なる意見を受け入れることができ「自分の意見が絶対ではない」という気づきがあったという意見もあった。このようなことから、すべての活動を通して、話し合うことの大切さを学ぶことができた。

また、新型コロナウイルスの影響やその他の想定外のことが起こった時にも臨機応変に柔軟に対応しておくことで道が開けてくることも学ぶことができた。できないことを探すのではなく、できることは何かを考え協力して活動することができたことが、今後の取り組みにつながると信じている。

さらに、地域を訪問し、挨拶するだけで迎えてくださった方々が笑顔になる姿を目の当たりにし「自分たちも地域の方に元気を与えられるんだ」という気づきもあった。また、授業で育てている野菜を「本当に美味しい」と言って喜んでくださっている方々に直接会うことで、自分たちの活動に自信を持つこともできていた。このように、チームプロジェクトでお世話になった関係者や地域の方々とのつながりは、生徒たちの今後の学びにもつながる大きな財産となっている。

### Ⅳ 評価方法

神山創造学Ⅱの学年末考査においては、生徒に事前説明をし、下表の評価基準で採点を行った。

（表1）

学年末考査は自己の振り返りシートとのレポートで評価した。レポートの評価はA「自分の言葉で表現する」、B「社会との関連性を発見する」、C「学びの意欲へつなげる」を3つのレベルに分け自己評価と担当教員の評価を実施した。

（表2・表3）

1年間のコースプロジェクトとチームプロジェクトの最終報告会を2月に実施した。参加した1年生及び2年生並びに担当教員より評価シートを収集し、学年末考査の評価に加えることとした。

【2021年度/2年生 神山創造学（チームプロジェクト）】  
 評価の観点と点数配分  
 ①振り返り【自己評価】・・・12点満点  
 ②レポート・・・13点満点  
 ③プレゼン（チームP1他前評価）20点満点  
 ④出席点・・・5点満点

①振り返りシート  
 ・①～④の選択肢  
 A・・・4点 B・・・3点 C・・・2点 D・・・1点

②レポート  
 ・以下のルーブリックをもとに点数をつける。  
 ※漢字や送り仮名の間違いは減点対象にしない。

	レベル1 (1点)	レベル2 (3点)	レベル3 (5/4/4点)
A【自分の言葉で表現する】 自分および相手の感情や思考を言葉にしているか	自分の気持ちや考えが表現されていない。	自分の気持ちや考えが表現されている。	具体的な経験を描写し、論理に飛躍がなく、第三者が読んでも読める力のある表現で書かれている。
B【社会との関連性を発見する】 体験から社会とのつながりや課題を学び取っているか	体験から何を学んだのかが表現されていない。	体験からの学びとそれを通した自分の感想が表現されている。	体験から、社会とのつながりや自分自身への気づきを得て、教訓として表現されている。
C【学びの意欲へつなげる】 体験が学びの意欲へつなげられているか	次に取り組みたいことや知りたいたいことに関する記述がない。	次に取り組みたいことや知りたいたいことが書かれている。	体験を経て次に取り組みたいことや知りたいたいこと、それらに対して自分が何をすべきかが書かれている。

③最終報告のプレゼン評価・・・20点  
 4つの観点と聞き手の評価  
 S：4点、A：3点、B：2点、C：1点

④出席点・・・各5点

最終調整  
 生徒の自己評価に対して、他者目線での評価を加えることで調整を行う。  
 調整の根拠は選択肢A-Dに準拠すること。  
 例) ②の段階で、本人は3の評価をつけているが、時評発言していたのでCに実質する(+2点)、など

(表1 神山創造学Ⅱ学年末採点基準)

クラス( ) 氏名( )

2年生神山創造学 1年間の振り返り【チームプロジェクト】

みなさん、1年間お疲れ様でした。今年の2年生には、高校生たち自身に任せる部分が大きく、大変なことも多かったろうと思います。こんなに自分たちで決めて自分たちで動かさなければいけないのは高校生活が最後な人もいられるかもしれませんのである意味貴重です。誰かと協働する時に大事なものは、人の意見を聞くこと、積極的に考え動くこと、自分ができるところを見つけて、チーム内だけでなく必要に頼ることだと思います。こないだのみんなの振り返り聞いてたら、結構できてる人が多いなと思ってほっこりもしました。何事も一生懸命にやった時間が少しでもあれば、その時間は大事な経験だと思いますっ！(秋山)

(1) 自分自身に関する1年間の振り返り  
 ①～④の項目を読んで、A～Dのうち自分に当てはまると思うアルファベットに○をしてください。

① チーム活動への貢献【協働する力】

A	B	C	D
チームに必要な作業を考え出し、メンバーの割り振りを任せた上で、自分の仕事も積極的にやった。	自分にできる仕事を見つけ、積極的に立候補して作業を行った。	自分に分担された仕事を引き受けた。	ほとんど仕事を引き受けなかった。

② チームメンバーへのサポート【協働する力】

A	B	C	D
メンバーの作業の進み具合や様子を見て、積極的にサポートをした。	メンバーが助けを必要としていることが明確な時は協力した。	ほとんどメンバーの助けはしなかった。	メンバーが助けを必要としているかどうか分からなかった。

③ チームでの話し合い【伝える力/話す】

A	B	C	D
全体の話し合いを進ませることを意識しながら、自分の意見やアイデアを積極的に伝えた。	メンバーに自分の感じていることや考えたことを積極的に伝えた。	自分から積極的に話すことはあきらめたが、意見を求められた時には自分の考えを伝えた。	ほとんど話し合いに参加しなかった。

④ チームでの話し合い【伝える力/聞く】

A	B	C	D
メンバーの発言に関連づけて発言したり、アイデアを出したり、質問を投げけるなど、チームで話し合いを深めることに貢献した。	メンバーの発言に対して理解を態度で示すなど、メンバーが参加しやすい雰囲気づくりをした。	メンバーの発言は聞いていた。	ほとんどメンバーの発言には意識を向けず、聞いていなかった。

(表2 神山創造学Ⅱ 学年末考査その1)

クラス( ) 氏名( )

2年生神山創造学チームプロジェクト レポート用紙

(2) 自分自身の振り返り【伝える力】  
 1年周を通して、特に印象に残っている事柄について具体的に書いてください。  
 内容としては、「実際の出来事（自分が実施したことやチーム内で起きたこと）、その出来事から感じたこと（自分の気持ち）、出来事から学んだこと（どんな気づきがあったか）、学んだことを今後どのように活かしていくか」の順に文章でまとめてください。出来事は1つでなくても2、3つ書いても構いません。今後どう活かすかは、自分が今後どうしていくかを書いてください。2学期のレポートにも書いてもらった内容と同じ人いるかと思いますが、何度も言葉にしていきたいことが大事だなと思っています。2月22日に実施したふりかえりでは、以下のような言葉がありましたので、書く時の参考にしてみてください。

▶レポート用紙へ

【2月22日の振り返りでみんなから出てきた言葉】  
 △アーマが大きくて何から手をつけていいかわからなかった  
 △方向性が定まらない  
 △計画性がない  
 △意見がまとまらなかった  
 △うまくいきすぎて時間が余った  
 △人任せにしてしまった  
 △話し合いの場を作らなかった→時間を決めて行動する  
 △計画の見直しがあった→振り返りをする



○細かい計画を立てる  
 ○方向性を早めに定める  
 ○スケジュールを明確にする  
 ○自分ができることを考えて見つけた  
 ○今年は来年の基礎づくり。失敗したから成功できる。全てのマイナスはプラスに変わる！

【採点表（参考）】レポートは、A、B、Cの3つの観点で採点をします。

	レベル1 (1点)	レベル2 (3点)	レベル3 (5/4/4点)
A【自分の言葉で表現する】	自分の気持ちや考えが表現されていない。	自分の気持ちや考えが表現されている。	具体的な経験を描写し、論理に飛躍がなく、第三者が読んでも読める力のある表現で書かれている。
B【社会との関連性を発見する】	体験から何を学んだのかが表現されていない。	体験からの学びとそれを通した自分の感想が表現されている。	体験から、社会とのつながりや自分自身への気づきを得て、教訓として表現されている。
C【学びの意欲へつなげる】	次に取り組みたいことや知りたいたいことに関する記述がない。	次に取り組みたいことや知りたいたいことが書かれている。	体験を経て次に取り組みたいことや知りたいたいこと、それらに対して自分が何をすべきかが書かれている。

足りなければ書へ

(表3 神山創造学Ⅱ学年末考査その2)

### ③ 課題研究への接続

#### i 目的

1, 2年次の神山創造学での学びを生かして, 3年次の課題研究に取り組むことを期待して教育課程が組まれている。生徒の認識としても教員の意識としても両科目がつながることを目指して, 課題研究の取組を研究する。

#### ii 対象生徒

地域創生類3年生29名

#### iii 実施内容

神山創造学では「伝える」「協働する」「深める」力を身につけるための教育活動に取り組んできた。課題研究への接続として「深める」ことに重点を置き, 技術向上や地域との関わり, 自分自身を見つめ進路に関連づけ, それぞれの課題に向き合い, 追究していくように進めた。

課題研究は, 課題の設定がとくに大切である。課題設定には時間をかけてじっくりと決めていかないとけない。テーマ設定から, 「なぜ, そのテーマにしたのか?」「どうしたいのか?」と問いかけながら, 目的を明確化し, その課題が【自分事×社会】にどう結びつくか, という時間を多くとった。

調査, 研究, 作品制作等で, 生徒はそれぞれの問題点にぶつかっていく。そこで, 「お互いに共有する」ことから, 生徒たちからの意見やアドバイスをもらい, これから進めていく課題研究の内容の参考になり, また, 現時点で振り返ることで考えるきっかけにもなっている。これは, 神山創造学からの学びで身につけたものである。



研究内容をお互いに発表, 意見やアドバイスを参考に話し合う様子

ここで, 課題研究の内容を一部紹介する。

神山杉を使って木工製作をするグループは, 休み時間に外でお弁当が食べられるように, 生徒が使える机と椅子を作った。物作りに興味を持ったのは, 環境デザインコース7名の生徒である。2年次のチームプロジェクトで学んだ役割分担で, 技術を磨き試行錯誤しながらも無事完成させることができた。



完成した机と椅子



調理実習の様子



2年次の「まめのくぼ」の活動から、神山小麦のお菓子作りに挑戦した生徒は、地域の人たちに「まめのくぼ」について知ってもらいたいという強い思いがあった。お菓子を通して、自分たちの活動を広げていった。しかしながら、製造許可がない本校では、なかなか食品の加工は難しいところがあった。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調理をすることが困難で、一転二転しながらの研究であった。レシピを作成・配布し、そのレシピをもとに、城西高校食品科学科の生徒に製造してもらい、なんとか形になった。まめのくぼの活動を伝えることで、地域のお菓子屋さんで本校の小麦を使ってもらうことができた。

神山校の歴史を調べた生徒は、自分が通う学校のルーツを探ることで、自分自身と向き合い自分の考えを深めていった。卒業生や地域の人のお話を聞きに行き、物語のようにまとめていた。これは、1年次に学んだ「聞き書き」の手法を取り入れている。

神山町の昔の民具のデータ処理をした生徒は、神山町の古くから使われている民具を知ることによって、そこでの生活に思いをはせていた。地域の方から話を聞いて使い方を調べるなど、粘り強く取り組んでいた。

まめのくぼプロジェクトの取り組みを多くの人に伝えるために、3年間の活動を冊子にした生徒は、神山町在住の編集者とともにアイデアをまとめた。1年次の「まちぐるみしごと体験」が生かされ、その職業についても学ぶことがあった。将来、自分の進学先で文章を書くときに生かされると思われる。

もともとダンスが好きな生徒は、自分はどこまでダンスを習得できるかという課題に取り組んだ。地域の有名ダンサーとともに技術を深めていく中で、自分の課題研究はこれで終わりではないことに気づき、人生の中に、この課題研究を位置づけた。



ダンス練習の様子



造園技能検定2級実技の様子

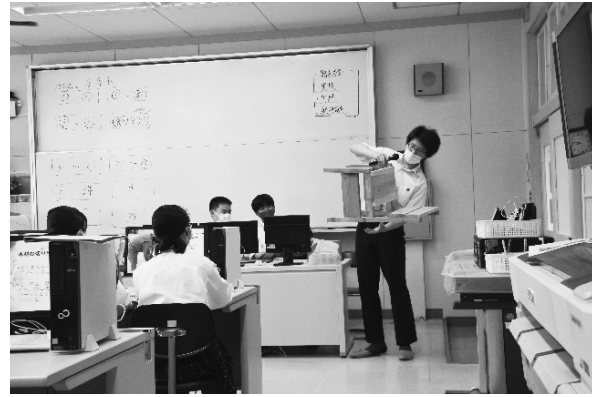
造園技能検定2級に挑戦した4名の生徒の一人は、造園業の仕事に就きたいという進路に直結した取り組みにもなった。検定合格にはならなかったが、技術向上を目指し、学校の庭園の整備、また、後輩に興味・関心がもてるように伝えることができた。

野菜の栽培、まめのくぼで自生しているお茶の活用、防災キャンプなど、今まで学んできた神山創造学から自分と地域の関わりを課題研究で取り組むことができた。

7月に課題研究中間報告の発表会を実施した。1,2年生は、2会場で発表を聞いた。1,2年生にとっては、自分が3年生になったときに、こんなことをしたいと思う機会になった。また、3年生にとっては、自分の考えをまとめる機会になり、振り返りを繰り返す行いによって、これからの課題と改善方法や方向性を考えた。今、自分たちがやっている取組に対して、立ち止まってフィードバックすることができた。



視聴覚室で中間発表の様子



情報処理室で中間発表の様子

課題研究の仕上げとして、2000字～3000字の作文にまとめ（参考：課題研究実践集）、それをもとに最終報告会を1月21日に本校体育館と視聴覚室で実施した。地域の方や保護者には、Zoomでオンライン配信し、後日YouTubeで公開した。まず、作文を苦手とする生徒のために、ライターの甲斐かおり氏を講師としてお招きし、作文の書き方を学んだ。なかなか言葉が出ない生徒も、なんとか文章にしようと努力する姿があった。



作文講義の様子



作文指導の様子

作文の中には、

「3年生からできる課題研究の授業をととても楽しみに思っていました。授業がスタートし、ガイダンスや自己解析の時間があり、いざ、「テーマ設定!」となると、好きなことを追求するだけじゃ理解されないと思いました。好きなことややりたいことはとても大切なことだけど、それだけではやりきれないことってたくさんあるだろうなー、と思いました。」

「これまで大変なことはたくさんありましたが、その中で「切り替える」ことの難しさと大切さを痛感しました。新しい課題ができるについ、ため息をつきたくなりますが、前向きに受け止めて課題の解決に向けて気持ちを切り替えることができるようになったら、もっと充実した活動ができていたのではないかと思います。」

「新型コロナウイルスの影響に左右されて目標が変わっても頑張ろう!って思える力がつきました。課題研究を通して、自分で考えて他人に自分の意見を伝える力がつきました。私は就職して、自分の意見をもって行動することは大切だと思うので、他人の行動が間違っているなと思ったときは、しっかり自分の意見をもって伝えようと思いました。」

「後輩に言いたいことは、自分を超えてほしい。その先に見える景色はその人にしか味わえない。」

という内容を書いた生徒がいた。課題研究を通して、課題や自分と向き合うことで、課題研究の本質を考えることになったのではないか。そこから「深める力」がついていくと考えられ

る。

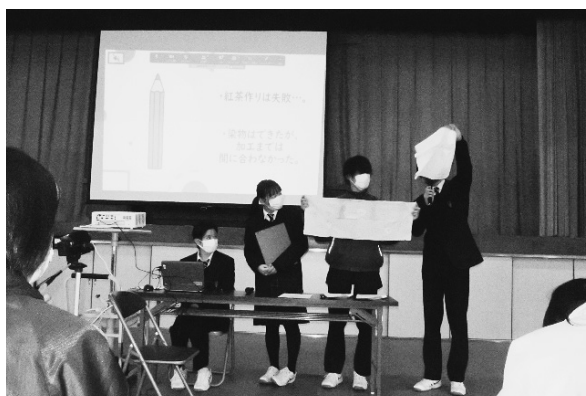
次に、報告会では発表に緊張しながらも、実際に作った作品を手に取り説明し、質疑応答に答えていた。自分ごとにとらえた課題研究の発表は、聞く側の人の心を動かし、多くの人から質問や感想がよせられた。

1年生の振り返りシートより、

「全体の発表を聞いて、工夫し、それでも失敗したことなど、どのように工夫したら大丈夫なのか、出来るようになるのか、しっかり発表していて、良く伝わってきました。インターネットなどで良く調べていて、「出来るようになりたい」「上手になりたい」などの気持ちも伝わってきました。私は、出来なかつたり、失敗したらすぐやめたり、諦めたりすることが多かったのですが、今回の3年生の発表を聞いて、ねばることが大切だと思ったので、頑張ろうと思います。実際にしてみでの感想を忘れず発表してくださり、何が出来て、何が出来なかったのか良く分かりました。」

徳島県教育委員会 中川 望 指導主事より、

「本年度も多様な取組を拝見することができました。年々進化しているなとつくづく感じます。特に、「ブレイク、タットダンス」や「神山校の歴史」は違った視点で興味深かったです。20代の丸山先生素敵でした。造園技能検定2級も懐かしく、生徒の頑張っている様子がかげえました。先が見えないことも多く、急な変更となりましたが御準備いただいた先生方、生徒の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。」



体育館での発表の様子



視聴覚室での発表の様子

#### iv 全体成果及び評価

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、様々なことが制限されたり中止になったりした。そんな中、縮小や形を変えながら実施することで、自分たちが「できること」を試行錯誤し、主体的に取り組む姿がみられた。しかしながら、失敗から改善していく過程で、その失敗について突き詰める姿が乏しいところがあった。その過程での教職員のアドバイスが重要となるだろう。

課題研究では、ルーブリック評価を取り入れ、生徒が評価に対してわかりやすく理解することができた。このような評価の可視化によって、発表の仕方を改善するなど、現時点での自分の立ち位置を確認でき、次回はこういうところを努力すると良いという見え方ができた。



## 課題研究 3年2学期 作文 68点

文字数 (16点)	C 4点 B 10点 A 16点
5つの項目 (4点)	C 6点 B 12点
内容 (48点/各24点)	C 8点 B 12点 A 16点 S 20点

	C / 達成目標に非到達	B / 達成したいレベル	A / 達成レベル超え	S / 期待以上
文字数	1200字～1899字	1900字～2100字	2101字～	—
5つの項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究のテーマ</li> <li>テーマを決めた背景や目的</li> <li>研究計画・内容</li> <li>思いどおりにいかなかったこと</li> <li>今回の経験を今後にどう活かすか</li> </ul>	1つ以上欠けている	要素をすべて含んでいる	—	—
様子を見ていない人にも伝わるか【描写】	<ul style="list-style-type: none"> <li>話がつかなくなっているところがある</li> <li>具体性に欠け、第三者が読んで理解が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に筋道を立てて表現されている</li> <li>内容や背景が具体的に客観的に書かれており、読み手が内容を想像できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[A]に加え、時系列を変えたりするなど、読み手を想定した効果的な文章表現を用いている</li> </ul>
自分の感じたこと・考えたことが表現されているか【感情・思考表現】	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実の列挙に留まるなど、自分の感情や思考が書かれていない</li> <li>漠然とした言葉で書かれているなど、表現が稚拙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じたこと・考えたことが書かれており、本人の感情や思考が読み取れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の経験から自己分析や社会への気づきを得るなど、思考の深まりが見られる</li> <li>豊かな感情表現がなされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[A]を超えて、社会への考察・原因の分析・改善策の検討・自身への内省がより高度なレベルで行われている</li> </ul>

## 課題研究 3年3学期 発表76点

※生徒の自己評価 + 担当教員 3名の合計点数

	C / 達成目標に非到達	B / 達成したいレベル	A / 達成レベル超え
伝え方	声が小さい、抑揚がない、原稿を読みあげるなど、聞き取りにくい発表だった	声の大きさやスピードが適切で、聞き取りやすい発表だった	抑揚をつける、問いかけを入れる、顔を上げて発表するなど、伝えることを意識した発表だった
発表資料の見せ方	視覚的な工夫はほとんどなかった	写真や現物を用いた発表があった	写真やグラフを用いる、現物を見せるなど、伝えることを意識した発表だった
内容の分かりやすさ	話のつながりが見えにくい、具体性に欠けるなど、分かりにくい発表だった	聞き手が大体内容を理解できる発表だった	全体的に筋道を立てて説明し、聞き手が内容をとてもよく理解できる発表だった
質疑応答	質問に答えられていない (グループの場合) 特定の生徒に任せていた	質問には答えているが受け答えが不十分だった (グループの場合) 特定の生徒に偏らずに答えていた	質問の意図を理解し、答えていた (グループの場合) 特定の生徒に偏らずに答えていた

## v 今後の対応と課題

課題研究の学習指導要領の目標は「農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。」である。指導項目として、

- (1) 調査, 研究, 実験
- (2) 作品製作等
- (3) 産業現場等における実習
- (4) 職業資格の取得
- (5) 学校農業クラブ活動

が挙げられる。これからも、生徒のやりたいことを農業学習指導要領に落とし込んでいくことが、今後の課題となる。そして、神山創造学の学びから、地域や社会に目を向けて考える力を身につけ、農業の学習を深めることができるように指導していく必要がある。

生徒は、着実に神山創造学で学んだ「伝える」「協働する」「深める」力を身につけ、課題研究につなげていると感じている。それは、メモや記録をとる神山創造学から使っているファイルやノートがその証といえる。さらに、課題の設定ができない生徒に対して、教職員が寄り添いながら一緒に伴走していかなければならない。課題研究への接続がスムーズにいくように、2年次の神山創造学から意識づけさせる指導を目指す。

## (3) キャリア教育の取組

### ① インターンシップ

#### i 目的

1年次の神山創造学で実施した「まちぐるみしごと体験」を土台とし、さらなる人生観や仕事観を養う。インターンシップを通して、「どの職業を選ぶのか？」だけ考えるのではなく、職業を選択するために必要な「自分を理解する」機会にする。

生徒一人一人がインターンシップでの目標を設定し、仕事に従事する。事前指導だけでなく、中間・事後の振り返りを充実させることで、職業を選択する上で必要な自己理解を深化するとともに、高校卒業後の進路に対しての意識を高める。

#### ii 対象生徒

2年生希望生徒（3名）

#### iii 実施期間と受け入れ事業所

- ・神山町役場（1名）
- ・神山椎茸生産販売協同組合（2名）

#### iv 活動内容

##### A. インターンシップに向けてのキャリアカウンセリング

- ・希望者、検討者12人を対象とした、1人20～30分のカウンセリング
- ・卒業後の進路、希望の職種、その他将来についてのモヤモヤについて話す

##### B. インターンシップ先の提案

- ・カウンセリングを元に、事業所の提案。必要に応じて、生徒と事業者との面談の機会を設定



C. 事前オリエンテーション

- ・インターンシップのねらいを伝える
- ・インターンシップ志望理由，目標を共有
- ・スケジュール，日報の書き方の説明

D. インターンシップ体験（前半）

- ・各事業所にて，仕事を体験

E. 中間振り返り

- ・数日間のインターンシップを終えてのふりかえり
- ・日報を元に，仕事内容や感じたことをお互いに共有
- ・残りの期間の目標設定

F. インターンシップ体験（後半）

- ・各事業所にて，仕事を体験

G. 事後ふりかえり

- ・インターンシップを終えての感想を互いに共有
- ・今後の目標設定
- ・1年生に向けた発表準備
  - インターンシップに参加した理由
  - インターンシップでの目標設定，結果（達成度）
  - 印象に残っていること，その時の気持ち
  - 仕事に対する気持ちの変化
  - 今後の目標

※上記の内容を2学期にある1年生の神山創造学で発表し，1年生は10月実施の「まちぐるみしごと体験」に向けての参考とする。

v 全体成果及び評価

1年次のしごと体験とくらべ，働く時間，そこで感じたことを文字にする，言葉にする時間が圧倒的に増えることで，人生観や仕事観の解像度を上げることができた。そのことで，働くことを自分ごととしてとらえ，将来に向けて思考することにつながった。

vi 今後の展望

インターンシップに参加する生徒は一部に限られている，より魅力的な内容にし，その内容や意味を伝えることで，参加人数の増加を目指す。

② 孫の手プロジェクトとサークル活動

i 目的

一人暮らしになり，家の周りの草地や庭木の手入れが難しくなってきた高齢者のお宅に，城西高校神山校の高校生が訪れ，学校で教わった農業の知識や造園技術を活かして，長期休み（夏休み，冬休み）にその困り事を有償で解消するプロジェクト。

「便利な地域サービス」ではなく，草刈り等を介した「交流プロジェクト」であり「実践教育の機会」であり，この取り組みにより「高校の新しいあり方や地域との関係性」の模索を目

的としている。

合わせて、授業で学んだことを活かし、誰かの役に立つ・誰かに喜んでもらうことを実感し、仕事観を養うことも目的としている。

ii 対象生徒

城西高校神山校全生徒，卒業生（男女や学年，科を問わない）

iii 連絡先

団体名：一般社団法人神山つなぐ公社 代表理事 馬場達郎

住所：〒771-3311 徳島県名西郡神領字本野間100

電話番号：050-2024-4700

iv 実績

日時：令和3年8月11,12日，12月18,19日

場所：町内12箇所

参加人数：延べ50人（内卒業生4人）

v 本番とそこまでの流れ

- ① 地域のお年寄りへのチラシを部落会長便にて配布し，依頼は公社が受け付ける。
- ② 電話等で依頼があると公社スタッフが直接訪問し，作業内容や日程を調整し取りまとめる。
- ③ 参加したい生徒に集ってもらい事前のミーティングを持つ。
- ④ 依頼案件の詳細を伝え，自身がやりたい仕事やできる仕事を考えながら，生徒同士で相談し，学年を超えた縦のつながりがあるチームを決定。
- ⑤ 当日は，依頼者に挨拶をし，作業内容の確認を行った上で分担し，協力して作業を開始。
- ⑥ 途中休憩では，お菓子を頂くことがあり，お年寄りと世間話をしたり，作業の進捗状況なども確認する。
- ⑦ 最後に作業完了の確認を行い，剪定クズなどの清掃と片付けをする。
- ⑧ 依頼者から公社への作業代をいただき，生徒には公社からアルバイト代を支給，領収書も記入。
- ⑨ 使った道具を学校の車に乗せ高校へ。片付けて，一日の作業が完了。

vi 今年度の新たな取り組み

孫の手プロジェクトの活動範囲，頻度をさらに広げるために，毎月第2土曜日に活動する孫の手サークルを立ち上げた。月一回の活動により，今まで以上に高校生が身につけた技術を生かす場が増え，その場で交流した高齢者の方が元気になり，まちの景観がよりよくなっていくことを目的としている。

活動をする上で，以下の4つのことを大切に進めた。

- ・プロ意識を持って依頼主の要望に応える
- ・意識的に依頼者と話す時間を持ち，信頼関係をつくり，ちょっとした頼み事にも応える
- ・対応できること，できないことを明確にする。できないことにチャレンジする場合は，依頼者とともに進める
- ・これまでの孫の手プロジェクトの活動内容は続けていくが，「みんなのやりたい」を大切に  
して新しいことにもチャレンジする

vii 対象生徒

城西高校神山校2年生対象に募集し、固定6人で活動

viii 実績

日時 : 令和3年7月10日, 9月11日, 10月9日, 11月20日, 3月12日

場所 : 町内7箇所

ix 具体的な活動内容

当日の流れはこれまでの孫の手プロジェクトと同様だが、前後の活動にも力を入れた。



地域での営業活動



道具のメンテナンス



事前の勉強会



コンソーシアム会議での報告



地域の方とオンライン視察

x 全体成果及び評価

今年度より新たな取り組みとして、サークル活動をスタートさせた。

コロナ禍ということもあり、当初の想定通りの件数をこなすことはできなかったが、その中でも、生徒主体で活動を進めることができた。

サークル活動では、自分たちで仕事の依頼を取り、下見と事前の学習、当日、振り返りを主体的に、責任を持って取り組むことで、高齢者の方とのコミュニケーション能力、剪定技術は確実にアップした。

その生徒が、夏休み・冬休みの孫の手プロジェクトでリーダーとして各現場を仕切った。月一回の活動で培った能力・技術を後輩に伝えながら作業することで、依頼者、高校生にとって良い時間となった。

仕事の依頼を受けるために、神領地区のお宅に営業活動するだけでなく、高齢者の集まる施設で講演をさせてもらい、広く周知することもできた。



高齢者サロンでの講演の様子



講演後、仕事依頼を受ける様子

#### xi 今後の展望

小さくではあるが、月一回実施するサークル活動が始まり、長期休みに実施される孫の手プロジェクトにもよい影響が出始めた。次年度以降は新2年生を新たに迎え、10名前後で活動ができるので、少しずつ範囲を広げ、より多くの高齢者の方の孫の手になるよう進めていく。

#### (4) 基礎学力の強化

##### ① 目的

社会的・職業的自立に必要な基礎学力の定着を図る。また、「学びの基礎診断」の認定ツールの活用を通して、客観的に認識する。

##### ② 対象生徒

全学年

##### ③ 実施内容

###### a 小テストの実施

日時 毎月月初めの3日間（朝のSHR）

科目 国語（漢字）・数学（計算）・英語（英単語）

対象 全学年

年度当初に各科目のテキストを配布し、各月の範囲を決めて計画的に学習しテストに臨むよう指導している。全てのテストをファイリングし、復習に役立てるようにしている。また、学年末には成績優秀者を表彰し意欲喚起に努めている。

###### b 放課後補習の実施

日時 月曜日・水曜日・金曜日の放課後



科目 国語・数学・英語  
対象 第3学年：希望者  
第2学年：希望者  
第1学年：全員

1学期は3年生のみ、2学期から1・2年生の補習を実施した。

c 「学びの基礎診断」テストの実施

日時 第1回 令和3年4月19日（月）全学年

第2回 令和3年12月20日（月）第1・2学年

第3回 令和4年2月18日（金）第1・2学年

科目 国語・数学・英語

内容 学研アソシエ「基礎力測定診断ベーシックコース」

（高校生のための学びの基礎診断に認定された測定ツール）

対象 全学年

1・2年生は年間3回実施した。3年生は4月のみの実施であった。長期休業中に事前学習のワークブックを学習するよう指導し、補習でも活用した。

④ 全体成果及び評価

小テストは数十年前から実施している取り組みであり、生徒の中では毎月行うことにより習慣にもなっている。また、放課後補習は一昨年度からの取り組みである。今年度、2年生は希望者のみの受講となり、生徒一人一人の苦手な分野などを把握することができ、個人に応じた学習法を行うことができた。1年生は全員受講のため、授業の補足等もおこなえる上に、少なからず学習習慣が身につくようになった。また、数学は学級を解体して2組に分け、それぞれに応じた授業内容で補習を行うことができた。

「学びの基礎診断」テストは3年目となり、全員が補習や家庭での事前学習にも取り組み、受験した。各自、自分自身の成績を確認することにより、定期考査以外での自分の客観的な学力を認識できたと思われる。1・2年生は、第1回より第2回の偏差値が上昇した人数の割合が46.4%であり昨年度と比較して成果は出ていない。

⑤ 今後の対応と課題

小テストについては、年々生徒の意欲が減退し、成績の向上もみられない。在学3年間で必要不可欠であると思われる内容を学習しているので、生徒には意欲的に取り組んでもらいたいと考える。1・2学年は、小テストで一定の得点が取れていない生徒については再テストを実施し、基礎力向上を図った。

放課後補習に関しては、1年生については全員が参加しており、昨年同様、学習習慣を定着させたいと考えているが、教室の確保と学校行事の兼ね合いで毎週3回コンスタントに実施できていない現状がある。また、各教科担当が1名しかいないため、今年度も学級ごと（数学は学級を解体しての2組）に各教科隔週の実施とした。

「学びの基礎診断」テストは次年度も引き続き実施する。

さらに、昨年度に引き続き、第3学年が朝のSHRで基礎学力向上を目指してプリント学習を実施した。来年度も引き続き実施し、少しでも生徒に必要な基礎学力の定着を図りたい。

また、全員受験の「漢字検定」の実施も引き続き実施する予定である。希望者受験の「英語能力検定」も毎回受験者がおり、さらなる上級を目指して取り組ませたい。



## 2 地域性を生かした質の高い教育環境の整備

### (1) 造園教育における「専門人材の配置」

#### ① 目的

各コンソーシアム構成組織以外にも神山町は、多様な企業、NPO 法人があり、多彩な専門人材を有している。このような地域との連携を通じて、「高度専門資格取得」を目指し、専門的な知識・技術の習得と次代の産業界を担う人材育成を図ることを目的とする。

#### ② 対象生徒

地域創生類 2 年生（環境デザインコース）12名

#### ③ 連携先

団体名：徳島県造園業協会 会長 椎野 正敬

住 所：〒770-0847 徳島市幸町 3 丁目109-1 細川ビル 3F

電話番号：088-653-1071

#### ④ 実施内容

造園技能検定 2 級講習会 第 1 回

日 時：令和 3 年11月24日（水）午前 9 時から午後 3 時まで

科 目：造園技術・造園計画・総合実習

場 所：造園土木実習棟 1 階，検定場

講 師：徳島県造園業協会 会長 椎野 正敬 氏

監事 水主 圭三 氏

造園技能検定 3 級合格者を対象に、午前中は、2 級の DVD を見ながら、実技の注意すべきポイントを教わった。3 級と違い、竹の向きや切る位置など細かい説明を受けた。午後からは、実際に竹垣の作製と敷石を練習した。検定で審査員がチェックするポイントや見栄えをよくするための技術を教わった。それぞれの作業工程を理解した。



唐竹の向きについて説明



ごろた石の性質について説明



縁石と敷石の配置について説明



作業手順のポイントについて説明

## 造園技能検定 2 級講習会 第 2 回

日 時：令和 4 年 2 月 16 日（水）午前 9 時から午後 3 時まで

科 目：造園技術・造園計画・総合実習

場 所：造園土木実習棟 1 階，検定場

講 師：徳島県造園業協会 会長 椎野 正敬 氏

監事 水主 圭三 氏

第 2 回の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、中止となった。

### ⑤ 全体成果及び評価

造園技能検定 3 級 12 名，造園技能検定 2 級 4 名が資格試験を受検した。昨年度に造園技能検定 2 級の講習を受けた地域創生類 3 年生が資格試験に挑戦した。今年度の 2 年生も来年度 2 級に挑戦し，合格者が出せるように指導していきたい。

（生徒の感想）

- ・造園業の仕事の話をしてきて、造園業に対して興味は持てた。実際に来年受けるかどうかは分からない。
- ・自分は庭師になりたいという夢があるが、高度な技術を見て難しかった。できるかどうか分からないけど、頑張りたい。
- ・石の配置の意味も理解でき、おもしろそうに感じたけど、庭を完成させるのは大変だ。

### ⑥ 連携先からの意見

県下で唯一造園が学べる高校なのに、造園関係に就職する生徒が少ないのはもったいない。庭作りや剪定などの作業に取り組む生徒の姿を見てみると、興味や関心はあるのかなと思われるが、造園業に就職する生徒が少ないことから、まず、造園に興味を持ってもらえるような話をした。これからも高度な資格取得にチャレンジできる環境を整えていって欲しいという意見であった。

### ⑦ 今後の対応と課題

指導する科目と教員を早めに決定し，指導計画を作成させる。そして，指導を継続的に行うことにより造園技能検定 2 級の 2 名以上の合格者が出せるようにしていく。

検定に取り組むことで，生徒は造園の基本的な技術を学んでいる。それに興味を持ってより高度な技術習得に意欲を持たせることができるように，地域で実践できる場，具体的には「孫の手プロジェクト」につなげていけるように，どんどん提供していく必要がある。

## (2) 多様な地域連携を実現する教育課程の構築

### ① 筆文字研修

#### i 目的

筆文字特有の字体について知識を深め，販売用の POP やパッケージを自分たちで作成するための基本的な知識と技術を学ぶことを目的とする。

#### ii 日程

令和 3 年 11 月 25 日（木）午前 9 時～午前 11 時

#### iii 対象者

地域創生類 1 学年 書道選択者（11HR 5 名 12HR 4 名）

- iv 講師  
藤森 圭二

- v 実施内容

基本となる筆文字の書き方を自分の名前で練習することから講習会は始まった。生徒たちがそれぞれ、藤森先生からアドバイスをもらい、筆ペンを使った味のある字体と書く上でのコツの習得に取り組んだ。そして自分の名前が、書けるようになった後は、書きたい文字やメッセージのお手本を作ってもらい、自分の作品を作った。



(生徒の様子①)



(生徒の様子②)

- vi 成果

パソコンでPOPや販売用のポスターを作ることがほとんどだったが、今回の研修で筆を使った表現方法に触れることができ、校内のイベントポスターや販売用のPOPを手書きで作るためのきっかけになったように思う。専門の方から指導を受けることで、教員だけでは伝えることが出来ない、実践的な技術と知識に生徒たちが触れることができたことは大きな成果だと感じている。また、講師先生から、直接褒められた生徒はその後、販売用のPOP作りなどで、自分から積極的に取り組む姿も見ることができた。教員だけでなく、大人から褒められることで自尊感情が育っていくことを改めて実感することができた。

- ② 海洋自然研修

- i 目的

本校は神山町をフィールドとして「森林ビジョン」の活動に取り組んでおり、森林から川へ、そして海へとつながっていることを学んできている。また、SDGsの観点より、海の豊かさを学ぶことで、私たちが神山校で生活している神山町の持続可能な取り組みを実感できることを目指す。

- ii 対象生徒

地域創生類 2年生26名

- iii 連携先

海陽町海洋自然博物館マリンジャム：奥村 正俊

一般社団法人 Disport：池浦 智史

一般社団法人ミライの学校：高畑 拓弥

合同会社みつぐるま：永原 レキ

海陽町商工観光課：戎谷 悟

#### iv 実施内容

日 時：令和3年10月15日（金）

場 所：海陽町海洋自然博物館マリンジヤム

徳島県の最南端、海洋町竹ヶ島にある海洋自然博物館マリンジヤムに行った。現地でサンゴの移植体験があるので、事前学習として、黒潮生物研究所の目崎拓真氏を講師としてお招きし、サンゴについて説明をしていただいた。また、生物基礎の授業ではSDGsを中心に森林と海洋の繋がりやサンゴの生態や保護、実際に海陽町に行くにあたり、町の自然や産業についても説明した。HR活動では、高知県の海の様子をDVDで視聴し、現在抱えている海の課題について学習した。

旅に食の印象は重要で、今回は「環境」と「食」をテーマに企画した。海陽町から伊勢エビを提供していただき、神山町からは、本校が育てたスダチ（JGAP認証）と神山椎茸、自家製の味噌を持って、食のコラボを実現した。新鮮な伊勢エビを使って味噌汁を作った。伊勢エビの捌き方を教えていただき、早速実践をした。最初は、固い殻に戸惑いながらも全員が上手に捌くことができた。山の幸と海の幸を贅沢に使った豪華な味噌汁のできあがりだ。伊勢エビの出汁と、椎茸とスダチの香りがしっかりと出た、普段では味わえないとても贅沢な味で、生徒は大満足だった。

その後、サンゴの移植を体験し、自分たちが移植したサンゴを船で見学した。数年後に成長しているサンゴを見る楽しみも増えた。サンゴを通して徳島県の魅力や海産資源の貴重さ、海洋環境の重要性など、様々なことを学んだ。



新鮮な伊勢エビ



捌いている様子



施設見学

#### v 全体成果及び評価

新型コロナウイルス感染症拡大の現状を鑑み、校外学習や交流学习の学校行事の実施が非常に困難な中、まず実施できたことに感謝する。

事前に学習してきたこともあり、生徒は目的意識を持って、施設の見学や体験活動をしていた様子である。海を目の前にして、開放感もあり、生徒たちの感想はどれも前向きなコメントであった。初めて食べる伊勢エビに感動し、友と語らう姿は笑顔でいっぱいだった。サンゴ千年の森に興味を持った生徒もおり、今回移植したエダミドリイシサンゴについて調べていた。貴重な体験ができ、環境と食をテーマに多くのことを学ぶことができた。森林環境と海が繋がっていることを実感できたのではないだろうか。

#### vi 今後の対応と課題

神山町で生活している私たちと海陽町で生活している海部高校生との交流を考えている。今回、神山校が海陽町に行ったので、次回は海部高校の生徒が神山町に来ることを企画する。長期でこのような活動が継続することが望ましい。



### ③ SDGs 研修

#### i 目的

SDGs についての講演およびカードゲームを通して、SDGs についての知識を身につけ、理解を深めることによって、地域貢献活動に生かす。

#### ii 対象生徒

3 年生全員

#### iii 実施日及び時間

令和 3 年 12 月 21 日（火） 9 時から 12 時

#### iv 実施場所

城西高等学校神山校 武道場

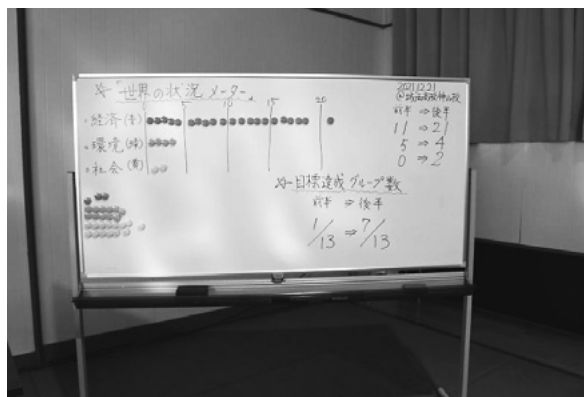
#### v 講師

2030SDGs カードゲーム公認ファシリテーター 渡邊 芳彦氏

#### vi 内容

『2030SDGs』カードゲーム公認ファシリテーターの渡邊芳彦さんを講師に招き、まず SDGs について講演をしていただいた。その後、カードゲームの説明を受けてから、13 のグループに分かれてカードゲームを行った。最初はやり方が分からず少し戸惑っていた生徒たちも、一旦ゲームが始まると、自分のグループの目標達成に向けて他のグループとカード交換の交渉を積極的にしたり、活発になっていった。最終的には、「経済」「環境」「社会」の三つの分野のうち「経済」に偏った世界となってしまった。

後日、講師の渡邊さんから、「生徒の皆さんにとって、どこかで何かの拍子に自分が大切にしているものが何か思い出し、気づいてくれるような、そんなキッカケになっていただければと思っています。」とメッセージをいただいた。





vii 全体成果及び評価

農業の授業や理科や社会などの教科の授業で、生徒たちは環境問題について学習したり、SDGsについて学ぶ機会があった。しかし、単なる知識としてだけではなく、カードゲームを通してSDGsの本質を体感し、世界と自分のつながりを実感できたことは、生徒たちの価値観や今後の生き方を左右するのではないかと思われる。

(生徒の感想)

- ・『大いなる富』という目標の中、お金の目があってゲームをどんどん進めて、ふと立ち止まった時に、環境や社会がぐちゃぐちゃになってしまっていた。今の社会に似ていると思った。目標達成が全てではなかったと思った。他のチームを助けることで全体のバランスを取り持つことはできたはずだ。
- ・SDGsについて詳しく知ることができた。カードゲームもして、なかなか思い通りにいかなくて、経済・環境・社会を安定させることは難しいことだと思った。
- ・自分と現実の世界とのつながりを感じる事ができた。
- ・今後の自分の意識や行動に変化が起こりそう。
- ・ゲームをしながらSDGsを学べたので良かった。

viii 今後の対応と課題

今回は3年生のみを対象に2学期の後半に実施したが、1年次や2年次に実施したほうが効果的だったのではないかと思われる。なぜなら、環境問題について早い段階で意識付けができていれば、神山創造学や課題研究への取り組みの中でもその視点や考え方を活かせるからだ。また、日程的にも事前学習と事後学習が十分ではなかったため、今後このような機会が持てる場合は、事前指導と事後指導を充実させる必要がある。

④ 林業体験（高校生等の林業就業促進現地活動）

i 目的

かみやま林業振興会員がこれまでに培ってきた森林、林業に対する知識と経験を活かし、地元高校生を対象に現地体験学習を行い、次世代を担う後継者の確保と育成に取り組むことを目的とする。

ii 対象者

徳島県立城西高等学校神山校3年生16名（男子15名、女子1名）引率者：指導教諭（丸山稔）実習助手（草本俊寿）

iii 実施者

かみやま林業振興会会長（岡本悦男）、徳島中央森林組合神山支局（岡本）、神山町産業観光か林業係（鳥庭）、その他かみやま林業振興会スタッフ5名

iv 日時

令和3年10月14日（木）午前9時から午後3時まで

v 場所

名西群神山町神領字南野間 足尾山県行造林神山町有林（図1 体験コース平面図を参照）

vi 内容

作業の内容は、チェーンソーによる玉きり作業やスイングヤーダによる間伐体験学習、クラップによる取材作業、フォワーヤーダによる運搬作業を、最新の高性能林業機械を4班に分け使い体験する。

## vii 日程

時 間	内 容	詳 細
8：40	会員は組合に集合	当日、木材市のため集材土場へ駐車（注意）
9：00	生徒は高校出発	役場の借り上げバスで森林組合まで移動
9：10	中央森林組合到着	振興会会長挨拶，事務連絡および日程確認
9：20	木材市の説明	中央森林組合員から木材市の説明並びに材の価格説明
9：30	木材市の見学	競りの様子を見学並びに競りの説明を行う
9：50	見学終了	トイレを済ませマイクロバスに乗車，伐採現場へ移動
10：30	現地着	作業内容の説明，作業用のヘルメットを装着
10：45	活動開始（1巡目）	4班に分かれて約30分毎に移動を行う
11：15	1巡目作業終了	次の活動場所に移動
11：20	活動開始（2巡目）	4班に分かれて約30分毎に移動を行う
11：55	2巡目作業終了	休憩と昼食 13：00まで
13：00	活動開始（3巡目）	4班に分かれて約30分毎に移動を行う
13：30	3巡目作業終了	次の活動場所に移動
13：40	活動開始（4巡目）	4班に分かれて約30分毎に移動を行う
14：10	4巡目活動終了	終了後，高性能機械による伐採エキシビジョン
14：15	閉会式	参加生徒代表挨拶，諸連絡，後片付け
14：20	現地出発	借り上げバスで移動
14：50	神山校到着	体験のアンケート記入

## viii 準備物

- (1) 借り上げバスはかみやま林業振興会が町営バスを借り上げる
- (2) ヘルメット・軍手は神山校が準備する
- (3) 弁当は各自で準備する
- (4) 保険はかみやま林業振興会がJAの保険に生徒分と教職員と会委員全員に掛ける
- (5) 虫除けスプレーはかみやま林業振興会が用意する
- (6) ブルーシート2枚は生徒の荷物置き場と休憩スペースに使う
- (7) 防振手袋4個専用ブーツ，専用ヘルメットはかみやま林業振興会が準備する
- (8) チップソーはかみやま林業振興会が準備する
- (9) 仮設トイレ手洗いタンクはかみやま林業振興会が準備する
- (10) チェーンソー2台は神山校から借りるまたは会員から2台借り
- (11) 公用車はキャラバン，軽トラをかみやま林業振興会が準備する

## ix 当日までの準備

- (1) 現地確認および仮設トイレの設置を役場が行う
- (2) 高性能機械の体験について徳島中央森林の機械班に説明
- (3) 伐採木の選択は中央森林組合委員が行う

## x 雨天時

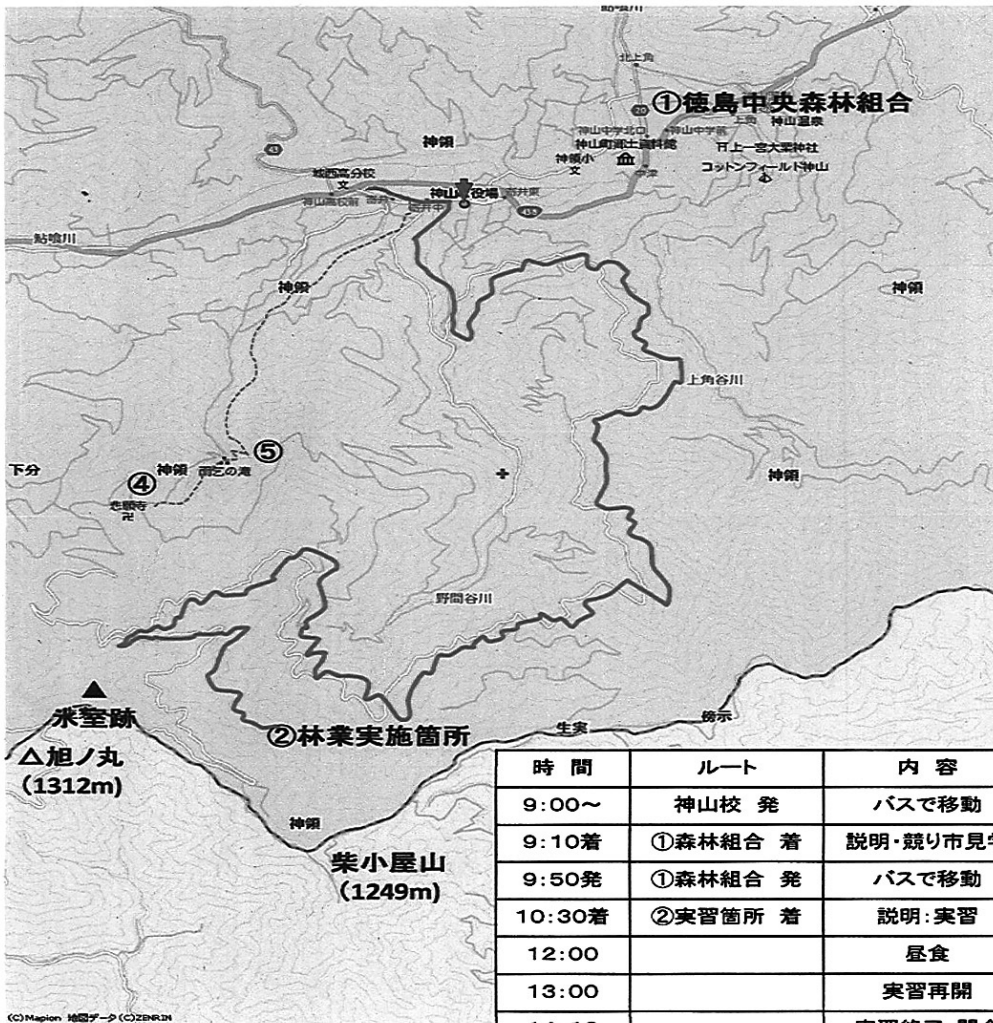
雨天により現地研修が不可能な場合は徳島中央森林組合の土場で研修を行う。時間や日程内容等については天気と同様で行う。高性能機械の体験はグラップルの操作体験を行う。チェーンソーによる伐木体験は短コロなどで行う操作方法については実演を行う。移動時間の短縮に

ついでには林業ビデオで学習を行う。なお、雨天作業の待機場所はテントを設営する。

xi 生徒の感想

学校では体験できない伐採や機械の操作を体験できてすごくためになった。大型の機械操作はあまり力もいらず簡単だった。林業作業は危険できついと聞いていたがそうではなかった。霧で視界が悪く前や後ろが見にくい場面があったが、山の天気はすごく変わりや胃ことに驚いた。3人が林業アカデミーに入学する、将来森林組合の仕事に就けるように頑張りたい。

**城西高校神山校3年生対象 森林体験 R3.10.14(木)**  
**場所: 神山町神領字南野間 森林間伐現場ほか**  
**3年 男15人 女1人 計16人+教員2名(丸山・草本教諭)**



時間	ルート	内容
9:00~	神山校 発	バスで移動
9:10着	①森林組合 着	説明・競り市見学
9:50発	①森林組合 発	バスで移動
10:30着	②実習箇所 着	説明・実習
12:00		昼食
13:00		実習再開
14:10		実習終了:閉会
14:20発	②実習箇所 発	バスで移動
14:50着	神山校 着	

(図1 体験コース平面図)





図2 かみやま林業振興会スタッフあいさつ

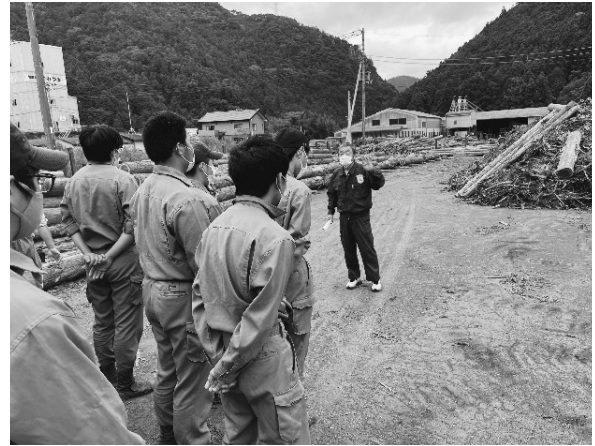


図3 中央森林組合の木材競り現場



図4 チェーンソーによる伐木体験



図5 スイングヤーダーによる玉切り



図6 フォワーヤーダーによる運搬作業



図7 玉切りしたチェーンソー

### 3 地域の生産交流拠点の創出

#### (1) シードバンクとしての機能

##### ① 神山小麦の生産・加工

##### i 目的

地域でつないできた種を保管し、交換しあえる場所をつくっていくために、令和元年度より神山小麦の栽培に取り組んでいる。神山小麦は神山町で70年以上継いでこられた種子である。



借り受けた耕作放棄地「まめのくぼ」の整備，管理から神山小麦の栽培，加工，販売まで，地域の景観保全と農作物の6次産業化の両観点でより実践的な活動を進めることを目的とする。

ii 対象生徒

地域創生類1年生・2年生・3年生

主に2年生食農プロデュースコースの生徒

iii 実施内容



まめのくぼ栽培計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生			小麦収穫						小麦播種			
2年生			小麦収穫				小麦製粉		小麦播種			
						そば播種		そば収穫		そば加工		
3年生	3年課題研究（小麦の加工）									発表		

まめのくぼの圃場における栽培は3年目を迎え，おおよその栽培計画に見通しが持てるようになってきた。1年生は神山小麦の播種・圃場の整備等を行った。小麦の加工に関しては，昨年度の2年生（食農プロデュースコース）が城西高校食品科学科の生徒に焼き菓子の試作をお願いしていた経緯があり，今年度は同じく2年生（食農プロデュースコース）の生徒が，昨年の試作をブラッシュアップしていくべく，城西高校食品科学科の生徒との交流会や意見交換会もオンラインで実施した。

販売に関しては，城西高校食品科学科で作ってもらったクッキーや製粉した神山小麦を神山町内の道の駅で販売することができた。販売する際には，神山小麦とあわせて3年生の生徒が



課題研究で取り組んだ「さつま芋のカップケーキ」のレシピ（※下図）をお渡しすることもできた。神山小麦の栽培・加工・販売という一連の流れを柱に置くことにより、複数学年に渡って神山小麦を扱う活動が可能になり、課題研究のテーマに設定した生徒もいた。

昨年に引き続き、コロナの感染拡大防止の観点から授業内での神山小麦を使った調理実習や試食は中止となったが、小麦を持ち帰り自宅で焼き菓子作りに励む生徒もいた。

※神山小麦とさつまいもをつかったレシピ（3年生生徒作）

### さつまいものカップケーキ

**材料**

・神山小麦	150g
・ベーキングパウダー	5g
・無塩バター	50g
・メープルシロップ	50g
・牛乳	50g
・砂糖	50g
・卵	M1個
・さつまいも(正味)	100g

約6個分

クリームをのせてモンブラン  
風にしたり、大学芋を飾っ  
てたりアレンジしても

**さつまいものクリーム**

さつまいも(正味)	120g
牛乳	30g
砂糖	30g
無塩バター	20g

**作り方**

- ①加熱してやわらかくしたさつまいもの皮をむき、裏ごしする
- ②小鍋に①と全ての材料を入れて弱火で煮詰め、絞れるくらいの固さになったら完成!

**準備**

- ・バターを常温に戻しておく
- ・加熱してやわらかくしたさつまいもの皮を剥き、50gを1cmの角切りに、残りの50gを潰して裏ごしし、ペースト状にする
- ・オーブンを170℃に予熱する

**作り方**

- ①バターと砂糖を泡立て器で混ぜ合わせ、メープルシロップと牛乳を加えてさらに混ぜる(きちんと混ぜていけばOK)
- ②「①」に溶いた卵を3回に分けて入れて混ぜ合わせる
- ③さつまいものペーストを加えて混ぜる
- ④神山小麦とベーキングパウダーをふるい入れ、ゴムベラでさっくりと混ぜる
- ⑤さつまいもの角切りを加えて軽く混ぜる
- ⑥お好みの型に生地を流し入れ、10cmくらいの高さから落として空気を抜き、オーブンで15分ほど焼く
- ⑦竹串などで刺し、生地がついてこなければ完成!

**ころころ大学芋**

さつまいも	100g
砂糖	小さじ4
みりん	小さじ1
水	小さじ2
醤油	お好み
サラダ油	適量

**作り方**

- ①さつまいもを1cm角に切って水にさらしておく
- ②水気を切った「①」をきつね色になるまで揚げる
- ③さつまいもを揚げている間にフライパンに☆の材料を全て入れて煮る
- ④の気泡が大→小→極小になったら火を止めて 素早くさつまいもと絡める
- ⑤クッキングシートに並べて冷ませば完成!

「まめのくぼ」の圃場は1年生から3年生までの学年で扱う内容ではあるが、1年生で播種した小麦がその後どのように加工され、商品になっているのかは環境デザインコースに進んだ生徒たちには見えていない。そこで、2年生のコースプロジェクトの時間に、食農プロデュースコースと環境デザインコースの生徒たちが、自分たちが取り組んでいる活動について伝え合う・聞き合う時間をもった。



6月3日 オンライン交流



7月2日 環境・食農 共有会